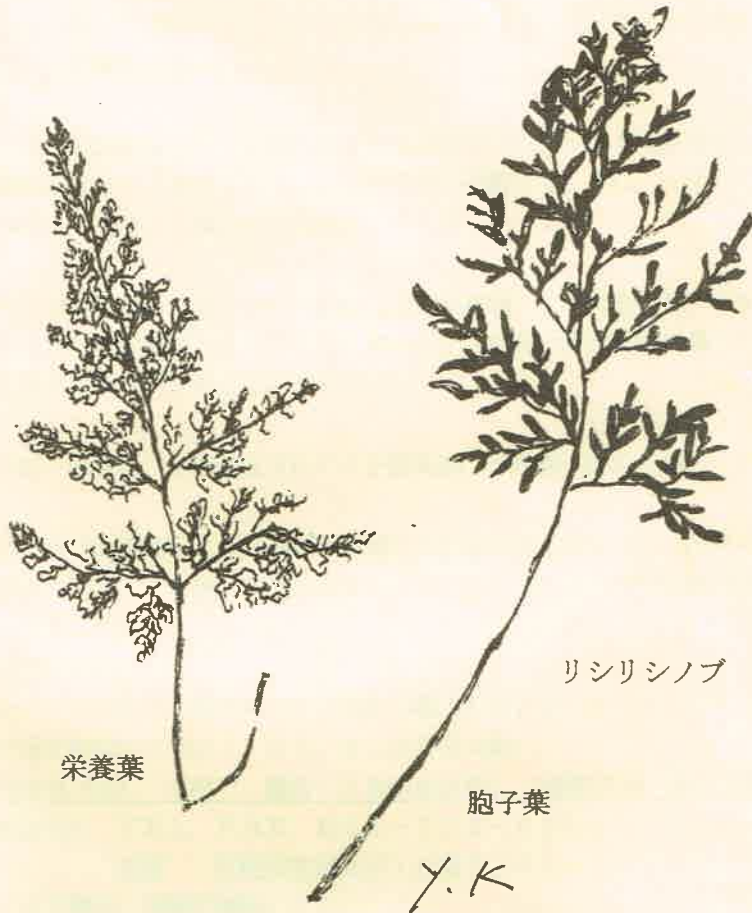


# エゾノアツ



## 2011 秋季号 98

北海道ボランティア・レンジャー協議会

# 目 次

2011, 10月 98号

- |                                   |                |
|-----------------------------------|----------------|
| 絆を深める                             | 会長 春日 順雄       |
| 1 自然観察会                           |                |
| ・芸術の森周辺観察会                        | 札幌市 吉川 茂子      |
| ・ハイマツの花                           | 小樽市 小笠原道子      |
| ・8月4日 夏の森観察会に参加して                 | 札幌市 池田 美鈴      |
| ・自然観察会に参加して                       | ” 水戸 唯則        |
| ・夏の野外撮影会                          | 北広島市 曾根 高瞭     |
| ・銭函天狗山登山観察会                       | 小樽市 林 東洋       |
| ・秋の花でにぎわう森を歩こう観察会 <u>*忘年会の案内</u>  | 江別市 土屋 忠司      |
| ・一枚の葉と“放射能の世紀”                    | 札幌市 浅見 文貴      |
| ・秋の森の匂いをかごう                       | ” 浅井 一紀        |
| 2 研究、旅行などから                       |                |
| ・アメリカ合衆国への旅のお勧め 第一回               | 札幌市 川田 貞       |
| ・ベルクマンの法則                         | ” 田村 允郁        |
| ・更なるご活躍を期待して アポイフアンクラブ            | 様似町 佐々木 泰      |
| 3 オオハンゴンソウ防除について                  |                |
| ・オオハンゴンソウ防除物語                     | 札幌市 川床 博康      |
| ・オオハンゴンソウ防除作業に参加して                | 江別市 西脇 昭夫      |
| ・「オオハンゴンソウ防除作業」に参加して              | ” 佐藤多香子        |
| 4 連載                              |                |
| ・苔の洞門と樽前ガロー                       | 苫小牧市 谷口勇五郎     |
| 5 研修会、支部報告など                      |                |
| ・芸術の森観察下見会                        | 札幌市 成田 伸一      |
| ・鶴川研修会                            | 事務局長 室野 文男     |
| ・平成23年度 オホーツク支部秋季研修会無事終了          | 網走市 法師人春輝      |
| ・オホーツク支部研修会報告                     | 会長 春日 順雄       |
| ・十勝支部の誕生                          | 同上             |
| ・ボラレン十勝支部「秋の津田の秋、散策会」 <u>*新会員</u> | 帯白市 長谷川俊治      |
| ・キノコ研修会                           | 江別市 千葉 到       |
| 6 役員会、事務局                         |                |
| ・第二回 役員会 資料                       |                |
| ・事務局便り                            |                |
| 7 NOW 3, 4号                       | 吉田さん、田村さん、さん執筆 |

編集後記

## 絆を深める

春日 順雄

昨年暮れから、ボラレンへの入会勧誘活動を行いました。24名の新入会員が誕生しました。とても嬉しいことです。かなりの実践を積まれた強者<sup>ツヨモノ</sup>もいます。ボラレンの新しい「オッシュョウサン（おっ師匠さん）」として活躍をお願いしたいと思います。

おかげさまで、十勝支部が誕生しました。十勝は、釧路の方にも案内をだすという話になっております。富良野・旭川も来年度は広く道北を視野に入れた活動を標榜することになっております。これ皆、新しく参加された会員の方の力の発揮によるものであります。

ボラレンは、育成研修会の受講者が入会して組織する会です。指定管理者制度に移行した後も育成研修会が開催されていてよかったです。これがないとボラレンへの入会の供給源が無くなります。

ところが、今、地方にあっては会員の高齢化が進み新しい会員の補充がほとんど無い状況です。地方から育成研修会に参加する人が少ないのです。月日の経過の中で地方組織が壊滅状態になることが危惧されます。状況打開の決定打は見つからない。しかし、手をこまねいてはいられません。

### 育成研修会に参加しよう～ハードルを乗り越えて

現在の育成研修会は野幌森林公園の自然ふれあい交流館に固定しています。札幌圏への人口の集中や道の財政のことなど、様々な環境変化の中で、これもまたやむを得ないことと理解しています。地方から参加するには遠距離や宿泊のことなどハードルが高いのであります。しかし、育成研修会が頻繁に開催されたころの話をお聞きすると、結構、遠くまで出かけて受講しているのです。鶴川の人が厚岸まで行って受講したとか、札幌から芦別や登別に行って受講したなどの話をお聞きします。このような前例をお聞きすると、全道各地から自然ふれあい交流館に集まって来ることは、クリア可能なハードルだと思うのです。どうぞ、近くの知人などへの参加の働きかけを行い、地方会員の増加に心がけましょう。

### 今のうちにささやかな人脈を太く

ボラレン入会勧誘を断ってきた理由で一番多いのは、「高齢になっているので。」というものです。地方組織の再建は、人間の加齢という年月の流れの速さとの競争です。時間の余裕は余り無いと考えていいでしょう。そのためには、今のうちに、今あるささやかな人脈を探りながら会員間の交流が生まれるようになるといいなと、思うのであります。

自転車は走っている間はひっくりかえりません。止まると倒れるのです。組織も似たようなところがあります。ささやかでいい、年に一回の集まりでもいい、観察会でもいい、懇親会でもいい、活動がある限りはひっくり返りません。

今のうちに、今だからやらなければならない事は、地方との人脈を太くでありましょう。高齢化して来ましたから、今だから出来る残り少ないチャンスだと、そのように考えています。胆振や道南などささやかな人脈を探り当て、絆を太くしたいものと考えています。

## ボラレン会員をつなぐ絆

今回、ボラレンに参加して下さった24名の方は、ほとんどが札幌圏外であります。参加して下さって有り難い気持ちで一杯と同時に、この24名の方を初めとする会員の皆さまに、会として何を準備できるかと考えています。

### 1、観察会に出ておいでよ！

札幌での下見と観察会は連続ものでやっています。どうぞ、出ておいでよ！いい人との関わりが出来るよ。「下見は研修の場にしましょう。」が、今年度の方針。ボラレン会員の心をつなぐ役割を果たしています。会員の沢山の参加を夢見ています。

### 2、機関誌「エゾマツ」

「エゾマツ」は、年間4回の発行。「エゾマツ」は、会員の皆さまの心をつなぐ役割を果たしています。会員の皆さまの投稿原稿が主。投稿原稿の内容は何でもいい。ぼくどつでもいいではありませんか。筆者の手柄や薫りのするものが最高です。編集方針は、会員の皆さまの声を大事にするであります。「エゾマツ」が会員の心をつなぐ役割は大きいです。広報部一同頑張っています。どうぞ、沢山投稿して「エゾマツ」を育てましょう。そのことによって、「エゾマツ」が160名の会員の心をつなぐ機関誌として成長していきます。

### 3、メーリングリスト

全員がメーリングリストに参加していないのですが、全道に散在する会員の心をつなぐ有効な方法です。自分のフィールドの情報を発信する。分からないことを発信するなど、活発な情報交流が行われることを期待します。特に、双方向の情報交流は、心の交流にとって最も望ましいことです。

## 絶望の先に希望なし・絶望の先に夢なし

会員の高齢化は、待ったなしです。あと、5年と待たれないでしょう。組織の継続に関して、かなり悲観的な事を書き連ねましたが、ボラレン役員一同頑張っています。組織の高齢化や若返りが進まないなどは、どの団体も抱えているアキレス腱であります。一番困ることは弱音を吐くことです。「絶望の先に希望なし・絶望の先に夢なし」

「夢無ければ民滅ぶ」という有名な言葉が聖書にあります。社会のすう勢、会員の高齢化と補充、地方組織のことなど、ボラレンはまさに崖っぷちでありましょう。

夢を持ちましょう、へこたれるな、先輩から引き継いだボラレンのバトンを次の世代に、しっかりと、渡していきたいものです。

※本文では、略称で表記しました。(略称：ボラレン) 北海道ボランティア・レンジャー協議会・(略称：育成研修会)ボランティア・レンジャー育成研修会

## 芸術森周辺観察会

札幌市 吉川 茂子

朝起きたら、雨が降っていて少したって晴れるかもと窓を見ながら用意していたらまた降ってきて、うーんと少し考えていたら晴れてきて少し厚着で服を着ていたから急に暑くなるかと思い、そそくさときがえて、家を出ると快晴になりました。

体で天気、自然を感じられてとても気持ちがよかった。観察会に参加していて自然と向きあい体で少し感じられるようになりました。待つ間に始めにイモリを見ました。次にハコネウツギを見て、始め白でのちに赤くなる花の説明を受けました。きれいですねえ、ウツギにもいろいろな種類があるようです。地衣類の説明受けました。雨降ったらきれいな緑色になると、ちがう場所で雨降ってあときれいな色を見ました。又白いのは、かじょうとい木のもようでない事がわかりました。説明受けながら目に止めうーんと見るのが観察会かさねて行く中で自然な動作になっているなあ、他の事を考えないでひたすら聞いて見てうなづくのが何かいいなあと思いました。

シャククジョソウを見る事ができました。葉緑素をもたないのが不思議ですねえ。始めての花、キツリフネを見ました種をさわるとすごいきおいでパンとはじけました。少しびっくりしました。自然のいとなみはすごいですねえ。

天のうすめのみことの絵を見してもらいました。始めは、きれいな絵だなあと思いました。頭や体、手に植物が、つかわれていてその説明受けただひたすら植物に目がいってしまいました。コピーの絵をもらいました。不思議ですねえ。

芸術の森では、火山灰の札幌軟石を見る事ができ説明を受け、今年も見ました。

今年はずーんと思い、本屋に行ったら道央地区の地質の案内の本がちょうど発売されていました。少し高ったけど、購入したら少しホッとしました。観察会に参加しながらゆっくり学んでいけたらいいなあと思いました。それからどんな木、植物にも維管束があると説明をうけました。その時は、理解したのですが、忘れてしまい、次回たずねてみようと思いました。アザミを見ました。チシマアザミは葉がギサギサと彫刻の模様にも使われているとコピーを見せてもらいました。植物と建物がむすびついているのですね。

最後に音楽も聞かせて頂きありがとうございました。この時期の芸術の森は、森の緑がとてもきれいで深さもあり、川の音やハルゼミのなき声も聞けて本当に気持ちいいです。毎年楽しみにしています。

前日、下見をして頂き充実、また安全の配慮を心から感謝します。ありがとうございました。

## ハイマツの花

小樽市支部行事参加者 小笠原道子

7月23日(土)、山名も場所も初耳のニセイカウシュッペ山、月のこる朝空を遠くに見て、小樽駅前から車で5時少し前に出発いたしました。登山に行くべく13人のメンバー。

入口から左にシラネワラビ、オオバショリマ、ヤマソテツの群落。ポツポツと右側にミゾホウズキ、を見つつ、オガラバナ、ミネカエデの花が一緒に咲いていて、左下にエゾコザクラの赤紫の低立姿が初々しい。花柄を40cm程のぼしたトウゲブキの花。葉は厚ぼったい。前にオロフレ山で見た蕾だったハリブキの花もいつか見てみたい。もえる様な赤い実がつくと友人より聞きました。そして左に隠れる様にキバナノコマノツメが5つ6つ。頼りない姿がまたかわいらしい。そしてハイマツの雄花、雌花の赤い赤。少しひるんでいる様で5本1束の緑葉。この木も風雪に耐えて、こんなにきれいに、しっかりと咲いていると、思わずにこりとしたりしました。後にウサギギク(エゾウサギギク?)の葉っぱが柔らかく、さじ形で、兎の耳の様でした。

空、雲、雪残した山姿、そして風、360度パノラマ。夏の雲は「岩の如く」と評されますが、その日の雲はふわっと、すうっと横に棚引いていて、あの山を越えると違った土地にいけるのだろうか、思ったりしました。

チングルマの花は上では種をつけておりました。時間の移り変わりを垣間見て、小低木、リンネソウは頼りないが匂う様。ウズラバハクサンチドリがあちこちで、エゾイワツメクサのかたまりは、細葉でお花が妙に目立っていた。ウラジロナナカマドの花が満開。

朝、ウグイスの鳴き声がたどたどしくて、メンバーの人から叱咤激励されて、半ばより初鷺ぶりもかわいらしく、帰路には、ホーホケキョと、見送ってくれました。ミヤマキンバイの花は、ピカリと光り葉は美緑。

温泉にも案内されまして、空に星二つ三つ見つつ、9時に家に着きました。

ご案内、ご一緒下さいました皆様、本当にありがとうございました。



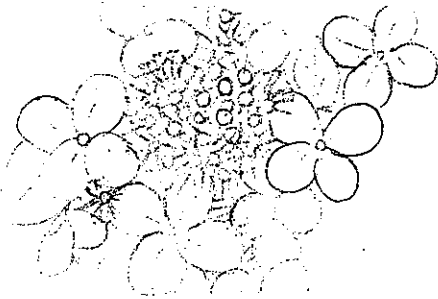
8月4日 夏の森の観察会に参加して

札幌市 池田 美鈴

ニコンの双眼鏡を購入したのは、もう 20 年も前のことである。結婚したばかりの頃、福島県の会津の住まいに、黄色の尾の長い鳥を時々見かけるようになった。それが「キセキレク」という名の鳥だと知ってから、急にバードウォッチングに興味をわいた。

その後、夫の転勤で新潟の佐渡、長野、埼玉と転々としたが、ずっと身近に鳥の存在があった。正式に野鳥の会の会員になったのは札幌に来てからで、月1回くらいは野幌の森でバードウォッチングを楽しんでいる。

今回の観察会では、樹木と植物を中心にいろいろ教えていただいた。野の草花もいつの間にか名前を覚えたものが多かったが、今回初めて見る植物もあり嬉しかった。



また一人では見逃してしまいそうな植物も注意深く観察し教えていただいた。

いつも一人で大沢口から入り、その日の気分でカラーコースかエゾユズリハコースを歩くことが多かった。今回歩いた瑞穂の池は初めて行くことができた。

7年前に札幌に来たばかりの頃は、野幌の森へ行くとたくさんの野鳥たちが迎えてくれたが、この数年野鳥の数が少なくなったように感じるのは私だけだろうか。

野幌の森がいつまでも豊かな森であり続けることができるようにと祈っている。貴重な時をもてたこと、そしてボランティアの皆様には感謝いたします。

8月30日

平成 23 年 8 月 27 日

## 自然観察会に参加して

札幌市厚別区 水戸 唯則

自然観察会に参加してからさまざまな植物に会いたくなり、機会があればいろんなところに出かけています。

先日、盆休みに帰省した折に実家からそう遠くないオムサロ原生花園に行ってきました。今回も同様カメラ持参で初対面の花やきれいな花を撮りました。よく目にする野幌森林公園や自宅周辺の植物と違い、砂浜に生育する海浜性植物は私には新鮮でした。また近くに池もあったのでそこものぞいてみました。

あいかわらず、その場ではわからない植物やあいまいな植物は自宅に戻ってから写真を見ながら図鑑とにらめっこ。たぶんこの種だろうと調べています。この繰り返しで少しずつ野草の名前を覚えています。

エゾカララナデシコ、シロバナハマナス、シロヨモギ、コウボウムギ、キタノコギリソウ、ミクリ、ガマ、エゾノコンギク、エゾミソハギ、ヘラオモダカ、ヒシ、オオヤマサギソウ、シオガマギク、ヤマハハコ、マルバトウキ、ハマボウフウ、ハマニガナ、オカヒジキ等が見られました。

その中で初めての植物が何種かありました。感激です。初めてみる植物に出会うと、いつも気持はわくわくドキドキです。

この 6 月には高山植物の宝庫といわれる夕張岳に行きました。「ユウバリソウ」と「ユウバリコザクラ」を目当てに登りました。途中例年より残雪が多く早すぎたかなと思いましたが、幸運にもユウバリソウとユウバリコザクラ、満開のシラネアオイ群落に出会うことができ感激でした。

野幌森林公園によく通っていますが、一つの種が芽出しから枯れるまでの植物の一生にも興味を持って見えています。変化の過程が非常に面白く感じております。

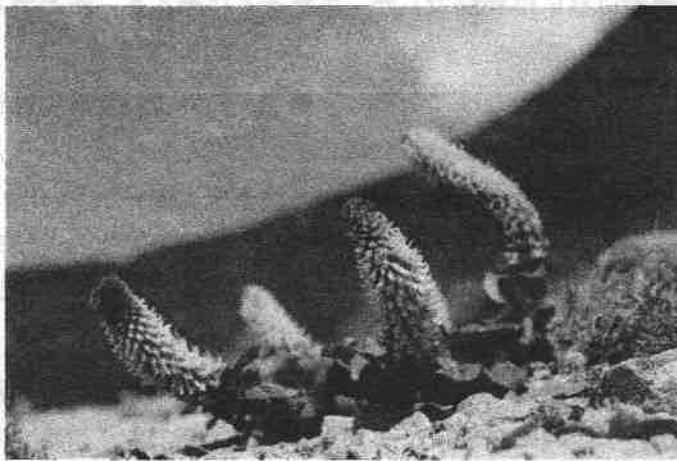


また、最近は昔からの日本人と植物のかかわり方、日本文化、特に美術（日本画の花鳥風月や植物画等）や生け花にも心が動き始めています。植物を知ることでますます世界が広がるような気がしております。

実は、今回がこの機関誌2回目の登場です。前は4年前でした。自分でもわかりますが、前回よりも格段に覚えた植物が増えました。これも北海道ボランティア・レンジャー協議会の皆さんが懇切丁寧に教えてくださったお陰だと大変感謝しております。有難うございます。

植物の世界は、知れば知るほど広くて深い世界だと実感しております。まだまだ覚えることがたくさんあります。今後ともご指導よろしくお願ひします。

以上



ユウバリソウ

## 夏の野外撮影会

二年C組 曾根 高瞭

今年の夏の野外撮影会では、野幌森林公園で、森の中を撮影しました。撮影会当日はとても日が出ていて、暑かったです。でも、みんな元気に写真を撮っていました。森に入って驚いたことは、森の中に入る前から、森の中は涼しいと聞いていましたが、予想以上に涼しくて、とても写真を撮りやすかったです。

森の中には、いろいろな虫がいて、普段では、見ることのできない、大きなのが幼虫がいたりして、驚きました。

写真は、主に森の木をメインに撮りました。いろいろな撮り方をして、木のいろいろな表情を表現しようと思って、撮りました。自分でうまくいったと思う撮り方は、木の幹にカメラをくっつけて、木の上を写す撮り方です。この撮り方は、木を大きく写して、力強さを表現しようと思いました。他には、低い視点から写真を撮るのも上手くいったと思いました。

全体の行動では、遅れて来る人がいたり、班がバラバラになったりしたので、その所を、直していきたいと思います。

二、三年生は、野幌森林公園に撮影会に行くのは二度目で、三月に見た冬の野幌森林公園と比べると、色々な所がちがって、森には季節によって、色々な表情があるんだなと思いました。

今回の撮影会の最後に登った百年記念塔で撮った写真は、とてもきれいに撮れたので、良かったと思いました。

今回の撮影会では、目標も達成できて、とても充実した撮影会になったと思いました。

今後はいろいろな角度から撮ることができるのは、良い所なので、伸ばして行って、あまり上手くできない、小さな物を写したり、動いている物を撮るのを、しっかり上手く撮れるようにしていきたいです。

## 8月4日「夏の森の観察会」で、北広島東部中学校写真部の生徒のみなさんを案内しました。その時の写真撮影の状況などについて、書いてもらいました。すてきな文でありがとう。

平成 23 年 9 月 15 日

小樽市 林 東 洋

### 銭函天狗山登山観察会

私の登山暦は、中学 2 年の木曾駒ヶ岳全校登山が唯一の経験です。

毎日仕事の行き帰りに見上げていた山が銭函天狗山と知ったのは、春香山に登る途中で行き交う登山者に教えていただきました。事業がだめになり、何をすることもなく暮らし始めた 6 年前、子供の頃を思い出し、山歩きを始めたのです。

春香山、和宇尻山、小樽内山、軍事道路を歩く内に、小樽野草愛好会とご縁になり、丸山、赤岩、遠藤山、松倉岩、毛無山、朝里峠などを巡ることができました。ありがとうございます。

植物調査のたびに、木や野草のことをいろいろ教えていただき、ありがとうございます。また、この度は、銭函天狗山に登山できて家から見える山々は全て歩いたと思います。第二の人生を有意義に暮らすことが出来るようになり、心より厚く御礼申し上げます。さて、銭函天狗山の登山には課題を持って臨みました。

- ① 北原先生にこの山には「エゾエノキ」が自生していると聞いておりましたので発見したい。

しかし、行き帰りの沢筋にはなかったので先生に確認したところ、星置川の沢の方とのことで、別な機会に是非探しに歩いてみたいと思いません。またこの山は、アオダモが多いとのことですが、バット材ということは知っていても、なかなか実物にはお目にかかれない。

- ② 銭函市街から見上げると頂上付近が岩山になっており、結構有名とのこと、ボランティアレンジャーのプロの方々の話が聞きたい。

期待に違わず、北嶋さんから、山の歴史や岩の話を聞くことが出来ました。

銭函天狗山は、400 万年以上も昔、火山で手稲山より大きかったこと、輝石安山岩の柱状節理や板状節理が発達していることなどを勉強しました。

- ③ 野草や樹木の勉強をする。

私は、朝里クラッセホテルの花や木の世話や芝刈りを請け負っております。

物言わぬ草木を相手ですので、気楽に第二の人生を謳歌するつもりでしたが、最近ほとんど課題が増えて林道や遊歩道の案内、ハーブ園の整備などが期待されております。もう喜寿を迎えようとしておりますが、草や木の名前や特徴を覚えて、話しができて、観光客の案内が出来るとなりたいと思っております。

その他、ハナツリフネソウ、ヤマトキホコリ、ウリノキなどを学びました。

図鑑などで野草の特徴を勉強して、ホームページに掲載していきたいと思っています。

銭函天狗山は、標高536.7m、頂上が天狗の頭に似ている。

東斜面の柱状節理<sup>1</sup>では岩登りの練習場として有名とのこと、銭函からの登山道は銭天山荘の前を通り、北斜面の浅い沢を登っていく。しばらくすると急な登山道で、途中ロープが張られたところがあり、石（石英安山岩）だらけだ。北斜面の坂道のため湿気が多く、土も石もよく滑る、慎重に歩かなければいけない。特に下山は要注意です。

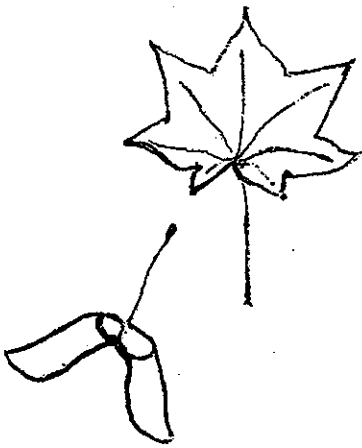
肩と呼ばれる見晴らしのきく尾根に出ると、頂上の柱状節理が迫ってくる。

眼下にゴルフ場が広がり、札幌市手稲区、北区から石狩市へと眺望がすばらしい。

頂上に着きました。急な登坂で少し減量したと思ったら、楽しい昼食です。

山々の眺望、手稲山、奥手稲、余市岳、春香山、和宇尻山、小樽内山、石倉山を眺めながら。銭函天狗山は、定山溪の方につながっている火山帯の石狩湾に落ち込む北端の山と習う。この稜線を進み、土場に出て、右手が桂岡へ、左手が星置川から奥手稲山林道へ。以前春香沢川から星置川を下ったことがあるが、銭天から奥手稲に行くのも面白い登山遠足になりそうだ。その帰路は、小樽内川から春香沢川、和宇尻山を越えて我が家に下る縦走を計画してみよう。

野草愛好会のご縁を大切にします。ご指導を賜りたくよろしく申し上げます。



イタヤカエデ



ヤマモミジ

## 秋の花でにぎわう森を歩こう観察会

ボランティアレンジャー土屋忠司

9月11日(日)の観察会は、エゾユズリハコース、志分別コース、四季美コース、カツラコースの約6 kmを4 時間半で回り、途中大沢園地で昼食休憩をとります。

秋の一日を楽しもうと天候が薄曇りにも関わらず受付に9 時半頃から参加者が次々と詰めかけ、当初用意した資料も不足し追加するほどです。

松井副館長の挨拶に続き、春日会長からセイタカアワダチソウとオオアワダチソウの見分け方やヒョウモンチョウが花の蜜を吸う様子など写真を基に説明がありました。今回の参加者は8 9 名で6 班に分かれ、私は15名(大人13名小学生2名)を受け持ちました。

出発してから早速広場の草原で子供たちが何かを捕まえビニール袋に入れていきます。見るとエンマコオロギとクサキリのように、子供達は花よりも昆虫が好きだ。

各コースの園路沿いには黄色い花のセイタカアワダチソウ、キツリフネ、キンミズヒキ、紫色のエゾトリカブト、ユウゼンギク白色のサラシナショウマ、エゾゴマナなどが咲いており秋を感じさせます。

花も終り、果実が赤く色づき始めたマムシグサやマイズルソウ、黒色のルイヨウショウマが目を楽しませてくれました。樹木では、ハリギリ、ハクウンボク、イタヤカエデが黒や緑の果実をつけて風に揺れています。

エゾユズリハコースでは別の班の人からシマヘビがいると聞いて、良く見るとノリウツギの枝にシマヘビがいるのが見えました。滅多に出会うことがないので、皆さんと前から横から縞模様や目などをじっくり観察しました。森林公園にはシマヘビのほかアオダイショウとジムグリが生息しているようです。

志分別コースでは、薄暗いトドマツ林の法面にミヤマウズラとアケボノシュスランの可憐な白い花を見て、女性の方たちは初めて見たと大喜びをしていました。四季美コースの入り口で水分補給とトイレタイムの小休止をとりました。

トイレが、以前の簡易トイレから箱型に変わり色も周辺に溶け込む茶系色になっているのに気がつきました。最近公園内の池の看板や園路の案内板が見やすいものに取り換えられてきています。

オオアワダチソウの花にハナムグリとカンタンのオスとメスを見つけました。どちらも2 cmほどの小さな虫で気をつけないと見過ごしてしまう昆虫です。

出発してから約2 時間で大沢園地に到着し、ここで3 0 分間の昼食と休憩をしました。

午後のカツラコースでは、食事をして元気が出たのか、小学2年生の男の子が私の横に並んで歩きだし、当別町からお母さんと小学1年生の弟と参加したと聞きました。途中園路で丸くなったオカダンゴムシを見つけたり、トドマツの幹にセミの抜け殻があったので教えてあげると眼を輝かせて見ていました。

坂道の途中でバナナのような形をしたツチアケビの実を見つけ、間近で観察し午後2時20分に大沢園地に到着し観察会を終えました。

今回はシマヘビに遭遇し、ラン科のミヤマウズラを見ることもでき、カンタンやハナムグリを見つけるなど収穫の多い観察会だったと思っています。

受け持った人数が15名と多かったので説明するときは、後列の人達にも聞こえるように心がけました。

野幌森林公園は、これから樹木が色づき綺麗な紅葉の時期となりますので、今後の観察会にも多数参加してくれるよう期待しています。

### ☆☆ 今年 の 忘 年 会 ☆☆

1、日 時 12月3日(土曜日) 6時より

2 場 所 北のささや

札幌市北区北7条西1丁目 NSSビル地下1階  
TEL、FAX 001-717-0338

3 会 費 3、500円

4 参加申込 11月30日

三崎 篤さん 002-8010 札幌市北区太平10条7丁目5-8  
Tel, FAX 011-772-0563

5 その他 当日キャンセルの場合は費用を負担していただきます  
ので予め御了承ください。

## 一枚の葉と“放射能の世紀”

札幌市 浅見 文貴

いやあ、恥ずかしながら私は泣きそうになっちゃった。私が野幌の森、初秋のさわやかな空気漂う道端から拾いあげた、たった一枚の葉。緑あざやかな葉の表面に描かれた“白い生命線”。そこに力強く生き貫こうとする幼虫の確かな痕跡に触れた塗炭、思わず胸あつくなる感動が突きあげてきた。つまり科学の敗北、命にかかわる世紀の一大パニック、フクシマ放射能の限りなき拡散の中で、健気にそして必死に生きようとする昆虫の生きざまに触れて心打たれたのだった。

9月11日といえば、レベル7というチェルノブイリと同等のフクシマが破裂し、最悪の放射能汚染が私たちに目に見えぬ恐怖を植えつけて半年目。それも3・11は政治人災による人類存亡の危機はらむ一大パニック、もっと言うなら、テロ戦争ボツ発のきっかけとなったNY9・11から10年目。いわば、科学が敗北する、人間が産み落とした自然大破壊の忌わしい“オンネンの日”。80人強の参加があった“秋の花でにぎわう森を歩こう”は奇しくも、この日に突き当たった。実に2,562種の動植物が生息する野幌の森。ご承知のように都市公園としては世界3大公園のひとつに数えられ、2,051ヘクタールの広大な面積の中で、掲載写真が物語るように動植物の生きとし生ける生命のドラマが日々営まれ、“放射能の世紀”の中でも、こうしてかけがえのない命を葉に頼っても幼くたった一匹で生きる姿。思いめぐらすと、あの泣きの海江田万里前経産の号泣とは似て非なる、胸しめつけられる感涙がこぼれ落ちそうになった。守りたい。この虫たちの命を必死しなければならない。放射能から。



“放射能の世紀”を逞しく生きる  
「白い生命線」-9・11野幌自然公園

この日のガイドは、宮本健市さん（北海道ボランティア・レンジャー協議会）だった。大変な博識で、説得力ある解説はA級。「どうです。ここ（右下方）の線は細いでしょう。親虫が生みつけた卵の幼虫が葉を食べて生命をつなぐ勢いが弱く、それがだんだん太くなっていきますね。白線は生命の成長過程を見事に線であらわした構図です」。しかし、天敵もいる。「幸い生命線を描いた幼虫は成虫して無事、飛び立った跡（写真左中央）」と宮本ガイド。

天敵のハチに急襲されていたなら、白い生命線は途中でコト切れていた、と言葉をつないだ。

なぜか、ふとあの原発大臣・本道選出の鉢呂吉雄先生の「死の町、放射能つけるぞ」の浅ましい言動がよぎった。

ともあれ、一枚の葉を生命につないだ昆虫は、おそらく「3・11 放射能の世紀」の洗礼浴びた初期生かも知れないが、人類はいつ暴発するとも知れぬ、危険分子を抱えている。ビン・ラディンを米秘密特殊部隊に暗殺されて激怒したパキスタン。すでにテロリストの拠点化が喧伝される中、核が巨大な力をもつ軍部やテロリストによる暴発の危険が高まっている。そして核のならずもの国家、北朝鮮とイラン、21世紀は一体どうなるのか。つくづく考えさせられる1日となった。理性回復なくして、人類の明日はない。(23・9・11)

#### <追伸>

“白い生命線”に約束「脱原発」の叫び。

やがて真相は明らかになるだろうが、仏の南部で12日起きた原発処理施設爆発事故。1人が死に4人がケガ。政府は放射能洩れの説明が不足し、なおかつ早々と収束宣言。世界最大の原発大国(仏58基、日本54基)“放射能の世紀”は生活「便利」を模索する科学の負の遺産がかけがえのない自然を、そして私たちの生命うばう図式。

絶対だ。フクシマを人類の終わりの始まりにしてはならない。“白い生命線”に約束しよう。脱原発は「野幌いのちかけた叫びだ」(23、9、13)



## 秋の森の匂いをかごう

平成23年10月13日

札幌市 浅井 一紀

森林公園で行われる、各種の観察会に参加出来る事を楽しみにしている一人として  
今回の自然ふれあい交流館、ボランティア・レンジャー主催の観察会も、大変楽しく終  
えることが出来ました。有り難うございました。開拓の村を出発し、スッカリ秋を感じる  
色づいた木々の中を、ボラレンの方の案内の下、草、木、花などの説明を受け、名を忘れ  
ない様にと思い復唱しながらも又忘れてしまうかな、何時もの事ですが、その繰り返し  
で、又参加して楽しんでいるのが、自分なのだと言いに聞かせている、この頃です。  
特に花の沢山咲いている時などは、記録しても、写真に取ろうが図鑑で調べてもその時  
には、確かに覚えているのですがね。

金子みすずさんの詩の中に、この様な一節を思いだし、自分の言い訳にしています。

【人の知っている草の名は、わたしはちっとも知らないの】

【人の知らない草の名を、わたしはいくつも知ってるの】

【それはわたしがつけたのよ、すきな草にはすきな名を】

【人の知っている草の名も、どうせだれかがつけたのよ】

【ほんとの名まえを知ってるは、空のお日さまばかりなの】

森に咲く花々が季節の変化を教えてくれ、そして虫たちも声高に叫んでいるように聞こ  
えました。松笠に上向き、下向きがあり、沢山付けていたのが印象に残りました。

そしてカツラの甘い香りにしたり、色とりどりの落ち葉の上を歩く葉音、いいですね。

私は健康のためにこの森に足を運ぶ様になったのがそもそのスタートで、森林浴、有  
酸素運動を行う自然の屋根の無い、病気予防のための病院でもある様に受け止めています

その様な中で、森に生きる動植物にも興味を持つ様になり今日に至っております。

この素晴らしい花鳥風月を何時までも続く事を願っており、大切に見守って行きたいと  
思います。今後もボランティア・レンジャーの皆さんの活躍に期待しております。

## アメリカ合衆国への旅のお勧め〔第1回〕

アメリカ合衆国は途轍もなく広い所です。日本の面積の丁度25倍もあります。従って色々な自然に満ちています。自然観察の視点で分類すると、「砂漠・乾燥地域」「湿地帯」「緑の豊富な地域」「山岳地帯」「海浜地帯」等に分類されます。今回は国立公園(National Park以下NP.)と国定公園(National Monument以下NM.)を中心にお話します。各公園や地域のお話をする前に旅の形態からお話します。広い地域を自分の目的で巡る為にアメリカでは車の移動がどうしても必要です。ツアーでは一般向けコースで組まれているので自分の目的を満足させる事が出来ません。特に最近のツアーは①安い=日程を短くする②多くの所に行く=旅程がきつくゆっくり観察できない。のが実態です。従って自分でレンタカーを借りて走るに限ります。レンタカーは日本で簡単に予約ができます。例えば「ハーツレンタカー」の場合はフリーダイヤルで勿論日本語で簡単に予約ができます。車の旅は2名以上4名位がお勧めです。2~3名の場合は4ドアのセダン。4名~5名はミニバンをお勧めします。セダンに4名だと荷物が積みなくなります。地理に不案内でもカーナビ装着車を借りれば心配ありません。日程はコースによりますが、14日~21日位をお勧め致します(長いほうが効率が良いです)今回は砂漠・乾燥地域の旅をお話致します。「グランドサークル」と呼ばれているアリゾナ州・ニューメキシコ州・コロラド州・ユタ州をぐるっと回るコースが初めてアメリカの国立公園巡りには最適です。

千歳空港⇨成田空港⇨ロサンゼルス空港⇨ラスベガス空港と航空機を乗り継いでラスベガス空港で車を借ります。ラスベガスの町は帰りに寄る事にして、先ず最初の観光施設は、「フーバーダム」です。1936年に完成した高さ200mのダムは当時は世界最大のダムでアメリカで2番目に長いコロラド川を堰止めて造られたダムは下流の水害を防ぎ、ラスベガスの町の給水、カルフォルニア州の農業・工業用水としても重要なダムです。

次に訪れる町はアリゾナ州の「キングマン」の町です。この町は西部開拓の為に作られた「マザーロード」と呼ばれる北のイリノイ州シカゴの町から西のロサンゼルス郊外のサンタモニカ迄約3,000kmの道の途中にある町で「パワーハウス」と呼ばれているビジターセンターやその周辺に昔の面影を残しています。(この町で1日目を終えます)

翌日はフリーウェイ(無料自動車専用道路で制限速度は120km/h・中西部には橋を渡る時以外は有料道路は有りません、殆どが120km/h制限ですが一部テキサス州で130km/hとたまに110km/h制限もあります)40号線を東に190km程走り「ウィリアムス」の町に到着しますこの間延々と瓦礫砂漠の景色が続きます。途中道に平行して「サンタフェ鉄道」の貨物列車が走っているのを何回か見られます。この列車は大体100両編成で驚きます。

ウィリアムスの町から左折して日本人には最も有名な「グランドキャニオン」のサウスリムに向かいます。

この谷はコロラド川が2億3,000年の時間をかけて大地を削った地層は2,000m以上の深さの谷を見る事ができ地球の歴史の自然史の教材と成っています(それぞれの時代の動植物の化石が出土しています)この地域に育つ植物に「ボンデローサ松」「ベイ松」

「コロラドトーチ」「エゾヘビイチゴ」「モメンツル」「シロモミ」「アメリカヤマナラシ」「ボンデローサ」「ホーリーグレイブ」「ヤマアラシサボテン」「ホワトブリットルブッシュ」「アメリカハナズオウ」等が見られます。グランドキャニオンから12km程南の町、「Tusayan」に宿泊するか、1時間程南東の町「Flagstaff」の町に宿泊します。

ここには100軒以上のモーターがありグランドキャニオン観光の基地となっている所です。

3日目は私の大好きな「モニュメントヴァレー国定公園」に向かいます。この景観は西部劇映画の第一人者「ジョンフォード監督」が何回も撮影をした場所で特に多くの撮影をした所は「ジョンフォードポイント」と呼ばれています。(17)

砂岩の台地が削られた景観はグランドキャニオンとは違った自然の驚異を見せています。この辺りは先住民（ネイティブアメリカン）のナバホ族の自治権がある居留地でもあります。この為か宿泊施設が少なく園内に2009年11月にできたモーテルと以前からあるものの2軒と基地の町「Kyenta」に3軒のモーテルしか無いので週末やオンシーズンには事前の予約を、お勧めします。

ここでは夕日が美しいので可能なら夕日を見るのを、お勧め致します。

この近くでは日本人が余り行かない、「キャニオン・デ・シェイ国立公園」があります。

ここには「スパイダーロック」と呼ばれている蜘蛛の足の形の巨大岩があります又「アナサジ」と呼ばれた先住民の岩の居住跡「ホワイト・ハウス」もあります。規模は余り大きくありませんが、お勧めの観光地です。

そこから北東に3時間程の「フォーコーナー」に向かいます。アメリカの地図を見ると州の区切りが地図を定規で単純に線を引いて決めたと思われる所が多いのですが3つの州が交わっている所は沢山ありますが4つの州が交わっている所は、フォーコーナーのみです。

西北がユタ州・西南がアリゾナ州・東北がコロラド州・東南がニューメキシコ州、この4州が単に交わっているだけですが、結構多くの観光客が訪れています。

そこから、80km北西（コロラド州）に「メサベルデNP.」があります。高い崖の中腹に造られている所が「アナサジ」と呼ばれた人々の住居跡で1400年程前に500人以上が住んでいた様ですが忽然と姿を消してしまい、その原因は不明との事です。（続く）

川田 貞家 記

# ベルクマンの法則

札幌市東区 田村 允郁

7月の下旬、赤井川村を流れる余市川へ溪流釣りにいってきました。赤井川村の市街地に近いこの場所は川幅も広く釣りやすく、コンスタントにヤマベが釣れ、釣りシーズンには何度か足をはこびます。

天気も上々、平日のこともあって、はるか上流に釣り人が一人いるだけで、胴長を出し、釣りの準備にも心がはやります。この時期、新子が多いので、大きなサイズをねらいできるだけ深みに針を流しながら釣り上がっていきました。

急流部分を避けて上流に行くため岸に上がり藪をこいでいたときです。竿と釣糸を気にしながら笹をかき分けていると、突然目の前2~3m先に大きな生き物、一瞬クマ!、と心臓が止まりそうですが雰囲気がちがいます。よく見ると大きなエゾシカです。私の目と相手の目がまっすぐです。こんな近くでエゾシカを見たことがないので、異様な大きさに感じられます。エゾシカの息遣いを感じられ、角が黒く異様です。時間にして数秒だったのでしょう。エゾシカはすっと笹の中に消えていきました。

九州屋久島に行った知り合いは、屋久島に生息するヤクシカはヤギやヒツジぐらいの大きさだったと語っていましたが、この大きさの違いはどこからくるのでしょうか。

日本に生息するシカ（シカ科シカ属ニホンジカ）は7亜種いて体重を比較すると次の通りです。

エゾシカ	雄	90~140kg	雌	70~100kg
ホンシュウジカ（本州）	雄	72.5kg	雌	50.5kg
キュウシュウジカ（四国・九州）		50~70kg		
ツシマジカ（対馬）		（資料が見つからず不明）		
ヤクシカ（屋久島）、マゲシカ		40kg		
ケラマジカ（慶良間諸島）		30kg		

エゾシカとケラマジカの体重を比べると3~4倍の違いがありますが、単に亜種の違いばかりではなく、生息する場所の気候（緯度）との関連性があるといわれます。もう一つクマの例があります。熱帯に分布するマレーグマは平均体長140cmと小型で、本州以南からアジアの暖温帯に分布するツキノワグマは130~200cm、北海道に生息するヒグマは150~300cmだそうです。この例も緯度が上がると体形が大きくなっています。

動物たちの体形と生息する地域の気候の関係を説明したのが、ドイツの生物学者クリスティン・ベルクマンが、1847年に発表した「ベルクマンの法則」

で、動物たちの体温保持との関係で説明されています。すなわち、恒温動物は常に体温を一定に保つためには体内で常に熱を生産しています。この熱は筋運動やさまざまな代謝によって生み出されています。他方、体表面からは熱が放出され、それを促進するため発汗による気化熱が利用されます。従って、体内での熱生産量はほぼ体重に比例し放熱量はおおよそ体表面に比例します。つまり、放熱量は体長の2乗に比例し熱生産量は体長の3乗に比例します。これは体長が大きくなるにつれ体重当たりの体表面積は小さくなることを意味します。従って、身体が大きいほど表面積は小さくなり体温を保持しやすくなります。ですから、寒い地方の生き物は、身体を大きくしたほうが有利で、暑いところでは身体を小さくして熱を体外へ放出したほうが有利なわけです。難しい説明はさておき、ベルクマンの法則を端的に言えば、暑いところに住む個体ほど体が小さく、寒いところに住む個体ほど体が大きいということです。

この法則を人間にあてはめたらどうなるでしょう。赤道直下に住む人より北極圏に住む人のほうが体が大きく、北海道の人の体は沖縄の人の体より大きいということになりますが、実際の傾向は顕著にあらわれません。人間の場合は、冷暖房や衣服で体温調節をしていたり、食や住居の環境を人為的にコントロールしているため、この法則はもろに当てはまらないといわれています。

地球の温暖化が進み、北海道の平均気温が上昇を続けていくと、エゾシカやヒグマの体形に変化があらわれるのでしょうか。また、体形を大きくしたい人は、冬など厚着などせず、室内の温度を上げず、自然に適応して生活するといえるのかな、などと短絡的なことを考えていたのです。それにしても、自然には体の大きさだけ調べても法則性があり、その論拠があることに感心したのでした。

#### 追記

類似の法則に、アレンの法則があります。これは1877年 J. A. アレンが発表したもので「恒温動物において、同じ種の個体、あるいは近縁のものでは、寒冷な地域に生息するものほど耳・吻・首・足・尾など突出部が短くなる」というものです。これは、温暖な地域では体の突出部が大きいと体表面積を大きくなり放熱量を増やす効果があり、逆に寒冷な地域では、その部分から体温を奪われると同時に、体温を維持できず凍傷にかかりやすいということです。

例として、キツネ類では、アフリカから中東の砂漠地帯には非常に耳の大きなフェネックスが生息し、極地に生息するホッキョクギツネは耳が丸く小さいことがあげられます。

また、最も寒冷な地域に生息する下北半島のニホンザルは他の地域の近縁のもの比べると極端に短い尾をもっているといわれています。

## 更なるご活躍を期待して！

ボラレンの皆さん、今年の夏も暑くなりそうですが、お元気で野山を歩き回って（失礼！駆け回って）いますか？

先日の様似研修会では、アポイ岳再生実験地のササ狩りのご協力をいただきありがとうございました。特に夜の交流会では、本音トークの情報交換もあり、大変有意義で楽しいひと時でした。また、アポイ岳ジオパークの研修・現地視察では、ハプニング？もありましたが、ご満足いただけたでしょうか？

皆さんとの交流も5年になり、お陰様でアポイ岳高山植物の保護・再生活動や「アポイ岳ジオパーク」によるまちづくりなど、着々と進んできているところです。しかし、盗掘や温暖化のほか、最近ではシカの食害や外来種などの問題も重なり、標高の低いアポイ岳はもちろん、全道各地域の仲間たちもその対策に苦慮しているようです。今後とも皆さんの献身的な活動に期待し、お互いの目的達成のため共に協力し合い頑張っていきましょう。（できることから、楽しく、美味しく、永く続ける秘訣ですね！）

参加できなかった方々のために、研修写真を紹介します。アポイ岳ジオパークのブログ (<http://www.apoi-geopark.jp>) でも紹介していますので、暇な時に覗いてみてください。

来年もぜひお出で下さい。お待ちしております。

アポイ岳ファンクラブ・様似町役場商工観光課 佐々木 泰



シカ柵に囲まれた再生実験地



海岸線のジオサイト視察



シカ柵に囲まれた再生実験地



海岸線のジオサイト視察

## オオハンゴウソウ防除物語

札幌市 川床 博康

7月25日(日曜日)。6:00起床。晴天、朝の気温は、20度、爽やかな目覚めであった。当初の天気予報は、曇りのち雨との事。友人の川田氏が気象庁に電話され「野幌エリアは晴らして頂戴！」と前日に依頼された為か・・・そんなジョークのお蔭でピーカンとなった。「又、日焼けするなあ〜」と鏡の前で60歳の顔のシミを気遣うが、もう手遅れ・・・今日は、北海道ボランティアレンジャー協議会5回目の、野幌森林公園での特定外来生物オオハンゴンソウ駆除の活動参加日。

そのボランティア活動のきっかけは、川田氏よりのお勧めと、常々、開発という大儀名分の基の「自然環境破壊の横行」特に「札幌市内乱開発での緑の減少の憂い」についてのお話をも拝聴しながら、自分自身少しでも自然保護活動の一端に寄与したいとの思いが沸々と沸いてきた。そして、今年4月に野幌開拓の村でのセイヨウマルハナバチの防除駆除の参加が始めての活動体験であった。

しかし、いざ参加してみると緑の自然保護とは、誠に粘り強い活動であることを改めて思い知らされた次第。

アポイ岳のミヤコザサ・野幌のセイヨウマルハナバチ・今回のオオハンゴンソウ

いづれも、人間が齎す外来種であり、それらが、従来の生物の生態系を脅かしているとは・・・早速、前日にインターネットでオオハンゴンソウを検索。

おっ！漢字で「大反魂草」と書くとは・・・その上、なんと綺麗な花を咲かすのか。

先人が観賞用に持ってきた気持ちに分らなくもないが、その繁殖力が強力でなければ、駆除されることもなかったろうに・・・しかし「多感作用物質」を分泌する為、他の植物が生息出来ないやっかいモノだそうだ。

集合時間の1時間前に野幌交流センターに到着。3月に訪れた時の真っ白な景色、それとは、全く違う「緑滴る」といった新緑の風景がそこには、存在していた。その移り変わる四季の風情は、正に「北海道・札幌の宝物」である。大切にしなければ・・・

と思いつつ、ふと、以前に、京都の和菓子作りの「遊び心」をある老舗の主人から聞いた事を思いだした。

その主人曰く「京菓子

というものは、四季の感性を引き出して作り出すのです。春の桜餅は3月初旬から作り出し、ごく淡い桜色から始めて、春がたけるにつけて日々、紅を濃くしていくのです。そして最後は、花の散り切るころに真白な桜餅を3日間作り「花供養」としてその季節を終わらせます。【花は落ちてても跡はなし。幻の花は、失せにけり】夏は京の美味しい地下水で「水鏡」の様に涼菓として作り込む水羊羹。秋の恵みの麦で作る麦手餅。そして冬は温かい白玉ぜんざいで年の瀬を迎えるのです」なんと、穏やかな

甘党の私には、たまらない話しである。前置きは、さておき、受付を済まし、冷たいドリンクをいただき、朝礼に参加。オオハンゴンソウの生態と外見そして駆除の注意事項等を確認。軍手を着け、スコップ・鎌を持ち、いざ出発！作業開始。



森林の中を歩き、様々な植物・昆虫達に出会う。しかし名前が覚えられない。

同伴の方に聞きながらメモるが、3分も経つと頭の中から消えていく・困ったものだ・・・少し森の中を歩くと道端に背の低いオオハンゴンソウを発見した。しかしそれは、前日の下見の方が目印の為にピンツのリボンを付けていたのであった。まだ他の草との見分けが付かず、いちいち聞いている始末。さあ～草むしりスタート。背の低い草むらからそれを見つけ、根っこから引き抜き、それを、手に持ち、姿を見比べながら除去をすすめていった。約数100m森林の中を歩いていると、突如、歩道から2～3m奥に背丈2m以上のオオハンゴンソウの群生が現れた。

「これは、凄いな！」と川田先輩。勇敢にも泥濘のその群生の中に入り戦いを始められた。私もその後につき、手元の小さなスコップで根から掘ろうとしたが、何と！手強い。その強靱な根は、約30cm以上もあり、悪戦苦闘の始末。幸いにも、同伴の方が大きなシャベルを持っておられたので、今度は、それをお借りし根の周りの土から根こそぎ掘り始めた。

「これは、効率が良いな～」と思った瞬間、その土の中から突如として太った大きなミミズが数十匹現れ、思わず「うわ～！気持ち悪い～」と不覚にもいい年をして叫んでしまった。すると、即座に川田先輩が「気持ちが悪い～？この子達は素晴らしい良質の土を生み出してくれるんだから、そんな事言っちゃ～失礼だよ～」と一括。なるほど、これは、失言であったと反省しきり。

戦いが約1時間余りも続くと息が切れ、汗が噴出し、おまけに手にマメが出来る始末。そして腰が悲鳴を上げだした。

普段エンピツとお箸しか持っていない生活のツケが回ったのか。しかし、その甲斐あってか、群生から空間のスペースが広がり、見る見る内に駆除したオオハンゴンソウが山のように積みあがり予め手配されていたトラックが巡回して手際良くそれを回収していただいた。しかし、かなり頑張って群生除去したつもりであったが、歩道に上がって遠目にみると、猫の額ほどのスペースしか除去出来ていないのに気が付いた。これでは切りがない。でも「もうひと踏ん張りするか・・・」と思いつつも、先陣のグループの方々が戻ってこられたので、これで打ち切りとした。すこしは、貢献出来たかなあ～と多少の自己満足の心境で納得していた。

約2時間の駆除作業を終え、交流センター前に集合。まずは、お借りした道具に付いた泥を落とし、冷たい水で手と顔を洗う、何と気持ちの良い瞬間でしょうか。最後に参加の皆様と来年のオオハンゴンソウ除去時期の設定等の確認と終礼を行い解散となった。

体は少し疲れ気味ではあったが、満足感一杯の休日でした。帰りは川田先輩と恒例の北広島島の蕎麦屋で手打ち蕎麦に舌鼓。そして、楽しみの定山溪温泉に直行し、久ぶりに使った体を癒した。何と、充実した一日でしょうか。兎に角、皆様に感謝、感謝・・・

又、次回頑張ります。お疲れ様でした。

オオハンゴンソウ防除作業に参加して

江別市 西脇 昭夫

7月下旬に開催された北海道ボランティア・レンジャー協議会主催のオオハンゴンソウ防除作業を昨年に続いて参加させていただいた。

オオハンゴンソウは種子と地下茎両方で繁殖するため、種のできる前でもまだ根が浅い7月中に抜き取らないと手遅れになってしまうと言う。

昨年は剪定バサミと移植ゴテを持って参加したが、株の大きいものは根が深く作業が捗らないことが分かったので、今年はスコップを持参、スコップを刺してこねるだけで大きい株でも簡単に抜き取ることができた。たまたま近くで作業していた3人が一組となって、ハンゴンソウを見つける役、スコップで掘り起こす役、掘り起こした根を抜き取る役と分担したところ、意外と作業が捗り、汗まみれになること約2時間、結構成果を上げることができた。

しかし、見渡すと遊歩道沿いのほんの一部にしか過ぎず、森林公園全体から見ると参加者全員の成果は僅かなのだ。繁殖力の凄まじい外来種は、一度入り込むと生息域の拡大を阻止することが困難なことを作業を通して学ぶことができた。これからは、普段公園を利用している自然保護団体や近隣の市民に協力を呼び掛けして、もっと大掛かりで実施したらと思う。

子供の頃、外来種はあまり見ることはなかったのに、農産物が頻繁に輸入されるようになってから、顕著になってきたような気がする。

今後、特定外来生物を増やさないためにも、海外からの移入を阻止するため、徹底したチェックとペットショップなどでの流通を厳しくすべきと個人的に思う。しかし、現実をみると海外との交易は益々拡大してきており、ガーデニングや旅行ブームなどで、更に外来動植物の侵入は増すばかりで、もはや防御は不可能なのか、侵入者を地道に駆除し続けるしかないのだろうか。我々が、快適さ便利さを追い求めてきた付けは余りにも重い。

駆除作業を効果的に実施するためには、法の整備や何がしの税のようなものの導入、市民活動への呼びかけなど真剣に行動を起こすべきと思う。

このままだと、ガラパゴスに匹敵する固有種の宝庫である日本の自然は、取り返しがつかないことになってしまわないか、気掛かりでならない。

協議会の皆さんには、何時も貴重なお話を聞かせていただき感謝しています。

これからも機会あれば参加させていただきますので、よろしくお願いします。

## 「オオハンゴンソウ防除作業」に参加して

作業日 2011年7月24日

佐藤多香子

私は2008年から野幌森林公園をときどき散歩しています。その時に綺麗な黄色い花をスケッチしたことを覚えています。オオハンゴンソウでした。

あとから特定外来生物で繁殖能力が高く、根からほかの植物が嫌がる化学物質を分泌して他の植物を駆逐すると知りました。花は美しいですが。

昨年、今年とオオハンゴンソウ防除作業に参加して、昨年作業した所はほとんど目立たなくなり、小さな株がでていました。

・ 昨年の作業の成果を知り嬉しく思いました。

私の背丈より大きく成長した株を引き抜くのはとても力が必要です。男性がスコップなどで根から引き抜き根切りをしました、根を焼却処分するそうです。

私は葉の見分けに自信がなく剪定バサミで根切り作業をしました。皆さん汗を流しての作業で、森林公園を大切に思っている人達の力を合わせて在来植物を守っていきたいという思いが伝わってきました。

中央線遊歩道両側のオオハンゴンソウは少なくなりましたが、まだ奥のほうに群生している所があり、夏には黄色いお花畑のようになります。数年後には又繁殖するのではと気になります。

三年間の防除作業でかなりの成果があったのではと思います（素人の考えですが）。

また、防除作業を行うときは参加したいと思っています。

今回の作業日程がわからず、北海道ボランティア・レンジャー協議会のHPを検索して調べました。もう少しPRをして多くの方々の協力を得るのが良いかと思いました。

森を散歩すると、美しい風景、かわいい花、小鳥のさえずり、爽やかな風、おいしい空気など、森からパワーをいただき幸せを感じます。

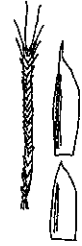
この豊かな自然の大切さと感謝の気持ちを忘れず、森を守り続けていけることを祈っています。

お疲れ様でした。

## 苔の洞門と樽前ガロー

苫小牧市 谷口勇五郎

6月末、樽前山の北側にある「苔の洞門」を訪ねました。ビジターセンターから500m程の通路の両側は天然林が続きます。オガラバナ（カエデ科）の上向きの花穂（花が100個以上）は黄白色なので余り目立ちません。ホウノキも花の時期で、まだつぼみのもの、咲いているものとあります。この花は芳香があるのに、咲き終わったものにはありませんでした。



壁面崩落の危険性と壁面のコケの回復・保護のために、閉鎖し、平成15年から洞門入り口に、壁面のコケを展望する観覧台が作られています。3m程の高さの台上に立つと、切り立った崖に、緑のコケがびっしり張り付いているのが見えます。台の上り口にある解説板には、生育しているコケ類は30数種で、最も多いエビゴケやエゾチョウチンゴケなどの体のつくりの図解もあります。20~30m引き返した山側に1m立方ぐらいの岩が2個あり、びっしりコケでおおわれていました。たまたま近くにいたセンターの職員に、コケについて聞いてみました。エビゴケ・エゾチョウチンゴケ・ジャゴケを指し、教えてもらいました。教えてもらえなければ、何か物足りなさを感じながら帰ったと思います。具体的なコケの名前はともかく、身近に壁面をおおう緑色の眺め、肌触りなどを期待して立ち寄る観光客が多いでしょう。ここは国道沿いでもあり、ひっきりなしに客が来ています。

エビゴケとその葉

支笏国道を10kmほど戻り、昭和62年全国育樹祭の行われたアカエゾマツの植林地に立ち寄りました。林床は半分ぐらい植物におおわれ、疎らにササバギンランが咲き、イチヤクソウ類（ジンヨウイチヤクソウ・コバノイチヤクソウ・コイチヤクソウ）がところどころに群落を作っていました。

一方、樽前山の南側、国道36号線から表示に従い4kmほど山の方に進むと「樽前ガロー」があります。こんな町外れに「画廊」と思いましたが、ガローとは「切り立った崖」の意味なそうです。これも「苔の洞門」と同じように支笏火山などの火砕流から生じた熔結凝灰岩の台地を流水が長年にわたり浸食して作られたものでしょう。切り立つ崖の壁からできているのは「苔の洞門」と同じですが、樽前川が底を流れています。それで橋の上や、傍の遊歩道を歩き、流れの音と、周りの天然林の鳥の声を聞きながら、下をのぞくことになります。ここは観光客がおらず人工の音はありません。川への降り口から、水辺に降り、身近にコケを見、さらに苔生す崖に囲まれた空間と川の流れは素晴らしいと思います。南向きで年間の気温も高く、川が流れ湿度が多いためか、壁面に生育するコケはエビゴケ・オオホウキゴケなど60種以上とされています。

7月9日好天の下、芸術の森の観察会前の熱心な協議会の会員による恒例下見会が実施され、会員の熱気で暑いのか、好天で暑いのかかなりの高温で、木陰の下を選び簡単なミーティング（通称法螺吹き大会）をしました。通常の観察会で利用できるネタとして、パンゲア古大陸の移動に伴い南半球は、 Gondwana大陸に、北半球はローデシア大陸に分割したことを簡単な資料を参考に話題にしてみました。

この項目で、とくに留意したいのは、南半球には落葉樹がないということで、唯一の例外の見本の様にナンキョクブナ属のみアルゼンチン南部地方に僅かに生育しているのみで、殆どないといっても良いでしょう。

斉藤新一郎氏の『木と動物の森作り』の60Pにも書いてありますので参考に確認して下さい。本番の観察会に葉の説明の折にでも利用できます。次に取り上げた「陽樹」と「陰樹」についての誤解について、

「陽樹」とは発芽時より陽葉をつけて生育している木本植物を指します。「陰樹」とは発芽時より陰葉をつけ草本、中低木より高く成長した時点で陽葉に変化する樹木類を陰樹といい、発芽時より枯死に至る一生がいを陰過ごすのではなく、葉が陽葉に変化した時点で陽樹になる樹木を指します。従って陽葉になった時点より陽樹となります。（半陰半陽樹）我々が観察会等で極相林（極盛相林）の話をする時があります。これは森林生態学の教え—サクセッション（植生遷移）に準拠されています。森林生態学の森林の時間的な推移についての学説により、樹種の耐陰性を基本とした、裸地からクライマックス（極盛相）への移り変わりを説明しています。（クレメンツ サクセッション）

裸地 ⇒ (草原) → 陽樹林 → 陽陰混交林 → 陰樹林 → 極盛相  
無立木地 草生地 先駆林 先駆後継混交林 後継林 陰樹林

しかし、この学説は時間と空間とを取り違えています。教育的説明では正しいですが、現地の遷移はそうならないのです。「負の遺産」の為に、次世代が生育できないので陰樹林→極盛相に至らないのです。この様な考えで下見会に参加した一日でした。

また本番当日のドビッシイ、アカンサスモリスもありで楽しい一日でした。

## 鷓川研修会 平成 23 年 8 月 20 日 (土) ~21 日 (日)

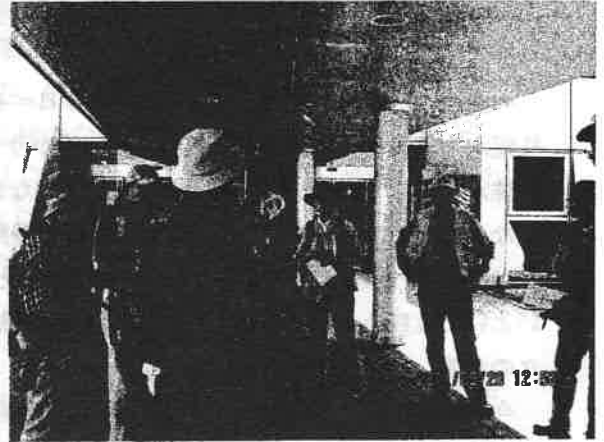
案内人：門村徳男・小山内恵子さん (ネイチャー研究会 in 鷓川)

研修担当：小林英世

会員参加者：春日順雄、田村允郁、三崎篤、伊藤秀平、内山恭子、室野文男、千葉到、

平取町：川村桂介

20日(土) 13:00 むかわ町 道の駅  
四季の館玄関 集合し、3台の車両に分  
乗し鷓川河口東側へ向かう、野鳥観察の  
ポイントの一つである漁港へ、ここでは  
目的のひとつである千鳥はトウネ、旅に  
遅れたスズガモ、ウミネコの幼鳥、セキ  
レイの親子、漁港を泳ぐ魚の群れなど観  
察し、海浜植物の観察地へシャボンソウ、  
オニユリ、イブキボウフウ、ハマボウフ  
ウ、キタノコギリソウ、イソスミレ、ハ  
マナス、ハマニンニク、シロヨモギ、ハ



マヒルガオ、オグルマ、ハマニガナ、コウボウムギ、ハマエンドウ、ハマハタザオ、シロヨモギ、  
オカヒジキ、オナモミ、オニハマダイコン、ヒメイズイ、ナミキソウ、ヒロハクサフジ、エゾオ  
オバコ、ウシノケグサ、ブタクサ、イヌビエ、シャグマハギ、ヤブマメ、ホソノゲムギ、ヤマア  
ワ、ツルヨシ、オミナエシ、ヒヨドリバナ、ナワシロイチゴ、エゾノギシギシ、ヒメムカシヨモ  
ギ、ツリガネニンジン、ヒロハノカワラセイコウ、ハチジョウナ、アラゲハンゴンソウ、オオア  
ワダチソウ、コシカギク、オトコヨモギ、エゾコゴメグサ、ハマフウロウ、アキカラマツ、エゾ  
カワラナデシコ、ムシトリナデシコ、メマツヨイグサ、ハナイカリ、ビロードモウズイカ、ナン  
テンハギ、などを確認し、16:15 観察会を終了、道の駅に戻り、宿泊場所のふれあい町民会  
館へ移動、風呂へ行く班と懇親会準備班に活動する。

18:00 から研修会、懇親会を開始、21:00 に終了、

研修会は門村氏のシギ・チドリに関するスライドを見ながら、懇親会を進めた。

21日、6時起床、7時朝食、

8:50 から観察会を開始、鷓川河口右岸をめざす。車を駐車してすぐ、タンチョウを発見、鶴  
居村へ行かないと見れないタンチョウを見ることができた。水溜まりではカルガモ、海辺ではウ  
ミウ、草原ではヒバリなどの野鳥を観察、植物ではヒロハクサフジ、エゾオオヤマハコベ、オオ  
ノアザミ、キツネアザミ、オオアワダチソウ、ハチジョウナ、ネバリノギク、ユウゼンギク、ミ  
ヤコグサ、ゲンノショウコ、ヤブマメ、アキノゲシ、ムシトリナデシコ、ハマニンニク、ウンラ  
ン、ハマハタザオ、ハマニガナ、サンカクイ、ツルヨシ、アキノゲシ、昆虫ではシオカラトンボ、  
スズメガの幼虫、カンタンが鳴いていた。11:50 ふれあい会館の前で解散する。

※ ネイチャー研究会 in むかわ <http://pomu.town.mukawa.lg.jp/1012.htm>

鷓川河口の自然を守りたい！次世代に伝えたいと活動する。積極的に行政  
に働きかけて侵食の激しい河口部に人工干潟を作り、大学の専門家などと連  
携して継続調査を行なっています。

## 平成 23 年度 オホーツク支部秋季研修会が無事終了

オホーツク支部事務局 網走 法師人春輝

今回のオホーツク支部研修会は、9月3日～4日と知床を選びました。

札幌からの参加もあるので天気ばかり気掛かりでしたが、足の遅い台風12号と前線が停滞して9月2日、道内は記録的な豪雨に見回れました。私も気がきでなりませんので、仕事も手に付かず台風の進路とアメダスデータとにPCに釘付けでした。遠軽町白滝で積算降水量178mmとなり、一部避難勧告も報道され、いよいよ駄目かと思っていました。しかし、研修当日、網走地方だけは晴れマークの予報。そして天気は奇跡的な晴れとなったのです。自称晴れ男。天に感謝！

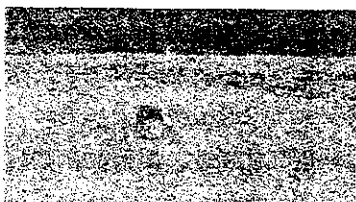
今日の宿泊地「知床ユースホテル」は、加藤登紀子の知床旅情が流行っていた頃そのままのたたずまいで、2段ベッドが各部屋に4つ、床の黒光りした食堂には炉端、今晚の会食が楽しみです。まずは、皆さん全員揃ったところで、岩尾別温泉・滝見の湯へ、ここはユースから約8km奥に入った秘湯です。

男性陣は4つの露天風呂にそれぞれが。女史殿は「ホテル地の涯」の内風呂へ行きました。どうして？意外？まだ〇〇らいが残っていた？(> <) スイマセン

今回のメインはユースのペアレントであり、知床アウトドアガイドセンター代表のS氏によるヒグマに関してのフィールド研修です。私達は早速現地へ向いました。場所はユースから浜に向かって5～600m、イワウベツ川に沿って向います。川にはカラフトマスが遡上し始め、上空にはアマツバメ達が飛び交っています。道すがらエゾシカがあっちこちにいます。ここ知床も多い方で「奈良公園」と同じ位と言っても過言ではありません。そのため食害も著しく、鹿の食べないハンゴンソウ、ワラビ、ノラニンジンなどの植物は繁茂しており、それ以外の植物は希少となっている現実を目の当たりにします。また、鹿が多いことで冬の食べ物に事欠かず、冬眠のしないヒグマを誘引しているとも聞きます。自然保護と保全、ヒトとの共生はいつも考えさせられます。

私達は、ヒグマの遠くでの出没に期待を込め、辺りを見回しながら、河口へと向いました。左右には大きな断崖が迫っており、ヒグマはこの崖を降りて浜に来るとのことです。S氏が「ホイッ！ホイッ！」と声掛けし、センターのシーカヤ

ツクが置いてある大きな岩陰に向いました。今朝、この置き場にヒグマが現れ、電気柵の中へ入って荒してしまったとの事です。ここでいよいよヒグマに出会ってしまった時の対処法を、熊役、ガイド役、ツアー客に分かれて学びました。



ヒグマ役を演じる支部員

射程距離まで来た熊にはクマスプレー（カウンター・アサルト）を顔面に向け一気に噴射します。

最後に、クマスプレーの実射訓練も行い、S氏のレクチャーは終了しました。S氏のツアー客を安全第一に保つという姿勢と動じない気迫が滲み出ていました。ヒグマの目視は出来ませんでしたが、ちょっとケモノの匂いがしていた様な気がしましたが、これは私だけだったのでしょうか。どこかでじっと私達のことを見ていたのでしょうか。

ユースに戻り、今日の会食は期待通りの炉端炭焼きでした。汗をかきかき、キンキ、ツブ貝、蛸といったオホーツクの海産物に舌鼓を打ち、岩尾別の熱帯夜は更けていきました。（キンキはやっぱり最高！！）

次の日は知床五湖へ向い、皆で1周しました。この時期は利用料を払い、ヒグマ対処のビデオとレクチャーを聴けば自由に散策が出来ますが、五湖の利用の仕組みも変わりました。ヒグマ活動期の5月から7月は登録引率者同行によるツアーとなっているので自由に散策は出来ないのです。危険と安全は紙一重、自己責任の範疇なのでしょうが、どうあるべきなのか課題だと思います。

それにしても、皆さん方の体力には驚かされます。この後、カムイワッカ湯の滝へ向い、そして札幌へ帰ったのですから・・・。

当支部管内は、自然に恵まれており、まだまだ（隠し玉）あります。今後も自然を楽しみながら、本部の皆さん方とも交流を深めながら前進して参りたいと思っています。またのご参加をお待ちしております。

悪天の中、遠路より参加下さいました皆さんに感謝です。有難うございました。



## オホーツク支部研修会報告

春日 順雄

9月2日(金曜日)全道的に大雨が降った日でした。激しい雨の中、私は、数人の仲間と白滝のボラレン会員小栗さんのところへ車を走らせていました。小栗さんの小屋に一泊、3・4日のオホーツク支部研修会に出席のためです。本当によく降った雨です。年寄り5人、よくもあの豪雨の中車を走らせたものです。

遠軽町白滝の小栗さん、遠軽町丸瀬布の佐野さんはオホーツク支部会員です。遠軽から研修会会場のウトロ岩尾別ユースホステルまでは距離にして220キロメートルほどです。会長の和泉さんは北見在住。事務局長の法師人さんは網走在住です。距離的に離れていすから、年に一度の再会でありましょう。まさに、年に一度のワンチャンスであります。それでも、オホーツク支部6名、札幌から7名、合計13名で良い研修会になりました。こんな悪天候でも人は集まるんですね。嵐にも負けず、挫けそうな心を励ます魅力はボラレンにあるんですね。

講師は、ボランティア・レンジャー育成研修会第2回修了生の岩尾別ユースホステルペアレントの関口 均氏です。現在、特定非営利活動法人 知床自然学校理事長でもあります。「ヒグマの生態と人との共存について」という学習でした、岩尾別の鮭鱒孵化場のあたりは、毎日ヒグマが出るんだそうです。そこまで出かけての研修でした。野生のヒグマをみられたらラッキーなんて考えていきましたが、「もしも、ここに熊が現れたら案内人は、そして参加者はどう動いて危機を脱するか。」という緊迫感溢れるものでした。あいにく熊の出現はありませんでしたから、熊のお面を付けた熊さんの出演になりました。熊が近づいてきます。案内人は、どう対応するか。みんな真剣であります。特に熊さん役は、走ったりしゃがんだり、我々人間を威嚇したり、大変なことでした。「緊急時の時は、案内人は観察会参加者の安全を絶対に守らなければならない。」講師の関口さんの重い言葉でした。

夕食後は、パソコンを使ってビデオプロジェクターによる映像の放映。皆さん、沢山の写真を持っています。一年間ためたものでしょう。一年間の疎遠を埋めるように、食べながら、飲みながら、おしゃべりしながら、ひとときを過ごしました。

夜中は、かなり強い雨が降りました。朝、少し雨が残っていましたが、そのうちに晴れてきました。知床五湖巡りの時は、かすかに硫黄山が姿を見せてくれました。カムイワッカの滝は完全な快晴状態です。

いい研修会でした。オホーツク支部の会員と心をつなぐ交流が出来ました。

支部内の会員が距離的にもずいぶん離れていても年一回の研修会は開催できるんですね。そのことによって会員間の絆も強まるんですね。

年に一回だけでもいい。全道に発信できるような研修会を仕組むには、遠く離れていても連絡・相談が必要になります。そのことが、支部役員の結束を高める。これがオホーツク支部の事例だと思います。何かを計画推進する、そして、実現することにより絆が生まれるんですね。

## 十勝支部の誕生

春日 順雄

嬉しい出来事です。6月26日、十勝支部が誕生しました。設立総会に札幌からは、春日・佐藤・三崎・室野の4人が出席しました。途中一般道も走りますが高速を使うと帯広へかなり短時間でいけることに驚きです。十勝側に抜けると織りなす丘陵と果てなく続くビート畑、そして、その向こうに十勝の広野が広がっていました。

丘陵を 一直線の ビート畑

果てなく続く 丘の広がり

釧路から、佐々木文雄さんが出席して下さいました。十勝からは、小野寺・長谷川・鹿嶋・川内さんの4名の参加。合計9名による設立総会でした。

午前は野草園で観察会、昼食をとって設立総会です。会場は帯広市児童会館。小野寺さんのご尽力による会場設定でした。

支部長に小野寺 実氏 事務局長に長谷川俊治氏をお願いすることになりました。役員選出の過程の中で、いい話がイッパイ出ました。少人数での相談ですから本音が出せるのですね。「すっかりさび付いているから、サビを落とすつもりで取り組んでみたい。」など。これなら大丈夫、支部は機能するなと感じるいい雰囲気でした。楽しむことを大切にしたい無理のない支部運営が実現することでしょう。

十勝支部の活動は根釧地区在住の人にも案内を差し上げることになりました。都合が付きましたら参加して下さいと有り難いことです。

### 「十勝野紀行」 俳句と草花 俳句つれづれ 小野寺 実 著

小野寺 実氏から『十勝野紀行』という本の贈呈を受けました。

小野寺氏は、俳人でおられます。平成13年『十勝の花たち』上梓。平成20年『十勝野紀行』上梓。創作意欲に満ち溢れ、十勝支部設立などの活動意欲に満ちた人であります。

『十勝野紀行』は、「十勝野紀行」・「俳句と草花」・「俳句つれづれ」の三部から成り立っています。中でも「十勝野紀行」は、十勝野23地点を取り上げておられます。自ら足を運び、自らの感性を基にその地の歴史や景観、自然と対話し、書きとどめた大労作です。「津田の森」の項では“秋草に沈む野仏津田の森”。“十勝発祥の地 大津”では“潮の香とハマナスの香の大津浜”。“足寄国道”では“雲海に阿寒の嶺々の聳え立つ”。“帯広市野草園”では“咲きそらい園華やげしニリンソウ”と、自作の句を記しています。また、十勝の四季を詠むとして(1)から(5)まで自作の句、25句が記されています。そして、小野寺氏は俳誌「柏林」の編集委員でもおられますから、同人の方々の句も取り入れて載せておられます。

「俳句と草花」と「俳句つれづれ」は、小野寺氏の俳句にかける情熱の発露が伝わってきます。まさに、小野寺氏の考える俳句論の展開と同人の人たちへの創作の幅を広めるための導きの書ともいえる氏の香りのする記述となっております。

- ・野の道に 蝦夷野紺菊 風誘う 実
- ・山霧や チシマザクラの 淡き紅 実
- ・エゾマツの 樹海の果ての 雲の峰 実
- ・みそ萩を めでつつ巡る 古寺の庭 実

## ボラレン十勝支部「秋の津田の森、散策会」ご報告

9月25日(日)、西帯広にある「津田の森」を十勝支部のメンバーによる会員同士の学びあいの「観察会」ならぬ「散策会」を実施いたしました。  
私、事務局の案内も遅かったせいも、皆さま先約があり当日は、小野寺支部長、木内さん、私の三人の参加でした。

この「津田の森」は帯広市内では、昔のままの森が残されている数少ない場所で、帯広野草園に次ぐ貴重な場所でもあります。

かつて開拓の頃に津田禎次郎が館を建てて、当時の帯広開拓の祖である晩成社の幹部たちと歓談したと記録にあります。その津田禎次郎の所有していた森であったものを、のちの禎次郎の子孫が、この土地をありのままの姿で残すことを条件に帯広市に寄贈した経緯があります。そういうわけで、この森は当時の姿を保っております。

私は、前の週に予習のつもりで一人で散策して写真を撮ったり、図鑑を見たりして調べたりしましたが、すでに秋の花の季節は終わりを迎えており、最後に残った花たちがとこるところにひっそり咲いている程度でありました。

更に一週間経った当日は、もうすっかり花は終わりといった感がありました。森の外側に残りの幾つかを咲かせていたオオハンゴンソウ。散策路の入口に紫色の美しい花をつけていたエソトリカブト。小野寺支部長の毒草との説明にすかさずメモをとる私。また、すぐそばに、赤い実が積み重なったお団子状についているコウライテンナンショウの実を発見。これも有毒とのことで、再び私はメモをとります。このコウライテンナンショウの実のついている様子は別名、ヘビノタイマツということも教わりました。なるほど、茎はその紋様がヘビを思わせ、その先に円錐状に積み重ねられた赤い実は、さながら松明の炎そのものです。このようなことも実物を見ると良くわかり、いい勉強になりました。

などと感心していると、気づけば蚊が周りにいっぱい！ 帽子やノートで蚊を追いかけていながら、どんどん先へ進みます。すると、大きな実をつけたオオウバユリの存在感のあるたたずまいが、私たちの目に飛び込んできました。花の時期も迫力のある花でしたが、実も大きくて目立ちます。足元に目をやると、緑の葉がこの季節でもツヤツヤとして美しいフッキソウがありました。フッキソウといっても、これは木ですよ、との説明に私はすかさずメモをとります。

さらに先には、チョウセンゴヨウの松かさの実をリスがきれいに中を食べつくした跡も見つけました。

森を抜け、外側を小路に沿って歩いていくと、オオバコを見ながら、別名を車前草とも書くと教えられました。森の反対側までくると、淡い紫が美しいエソノコンギクが咲いていました。その先では、一週間前に見つけてはいたけれど名前が調べきれずにいた白い花

を指さして二人に尋ねます。

「それはノリウツギ。ウツギは空木と書くの。ほら、枝の中が空洞でしょ」と木内さんに中の様子を見せていただきました。ストロー状になっているのですね。

また、この花は別名サビタの花ともいうそうです。そういえば、原田康子の小説に同名の作品がありました。

ざっと、一時間程度の散策でした。それでも、たくさんの収穫がありました。メモばかりとっていた私でしたが、書き出してみると花のない季節とはいえ、結構ありました。

- ・ オオハンゴンソウ (花)
- ・ エソトリカブト (花)
- ・ コウライテンナンショウ (実)
- ・ オオウバユリ (実)
- ・ フッキソウ (葉)
- ・ チョウセンゴヨウ (実)
- ・ オオバコ (葉)
- ・ エゾノコンギク (花)
- ・ ノリウツギ (花)

これからも仲間と集まり、学びあいながら研鑽を積んでいこうと思います。

十勝支部 長谷川 俊治

＊ 今年の育成研修会などで多くの人たちが入会 ＊

研修会前に、茅野和恵(砂川市)さん、今年の育成研修会では18人が入会されました。とっても嬉しいニュースです。わが協議会も200人大勢となり質、量とも最も充実してきたように思います。以下、名前を記します。

<札幌市>

川床 博康、伊藤 光弘、小野寺 昌人、三輪 礼二郎、行天 純子  
山下 泰範、吉川 茂子、

<江別市>

グロース千鶴子、大田敏枝、野田 貴代子、酒井 崇子、大表 順子

<小樽市>

石田 俊一 北嶋 徹、梅原 敏行

<北広島市> 吉本 正 <登別市> 内田 尚志 <苫小牧市>

榎戸 克美

## キノコ研修会

江別市 千葉 到

平成23年度上記研修会が、9/15, 10/5 の2日間「道民の森月形地区」で開催されました。きのこの知識のない者が執筆するのは、難点がありますがご下命ですので印象を記述します。

月形地区の散策路は広大で、東西平均500m、南北2300kmに及ぶ範囲です。敷地内には体験の森・キノコの森・バンガロー・学習棟等があり、林道網も整備されていました。

2日間にわたり講師の松原様に説明、ご案内して頂きました。参加者は13～15名ですが、2班に分かれたりして各人思い思い採取しました。2回目は35種類にもなり、見たこともないキノコが多くさんありました。散策路内には径30～40cmにも及ぶトドマツ、アカエゾマツ等も立派に成長していました。

午前中に採取を終え、昼食は講師の先生お手配の“きのこ汁”を美味しく頂きました。食後は採取したきのこを全て陳列し、指導のもと同定(鑑定)を行いました。参加者は図鑑の記載事項を見、写真と照らし合っしながら学びました。実際に手に取って見て、カサ、ヒダ、柄(え)、肉 他を確認、また生え方、生えている木の種類、発生状況等の記録が大切ようです。



食用と毒との比率は、後者の方が多かつたようです。名称は生育状況(状態)にちなんだ物が多い事がわかりました。食用不適のものに多ようですが、例えば、ムラサキシメジは紫色、オシロイシメジは白粉(おしろい)のように白色、ベニテングダケは真紅色、ホウキタケはほうき状、タマゴダケは卵状を呈していました。

冬虫夏草は見つかりませんでした。更に～モドキとある表現は、類似のものを言い、他にはない面白い表現だと思いました。

古来キノコの判定には迷信が多く、例えば、柄が縦に割れば食べれる、塩付けにすればどんなキノコでも食べれる、ナスと一緒に煮れば中毒にならない等言われていますが、根拠のない事で、指導者のもと、正確な知識を身につける事が大切な基です。

両日とも好天に恵まれて楽しい研修会でした。

## 平成23年度 第2回 役員会議

日時：平成23年8月26日 18:30～20:30

場所：札幌エルプラザ 2階会議コーナー

欠席者 中林、安倍

### 会長挨拶

### 前半期事業報告事項（4月～8月）

#### 総務部

会員の動向について

#### 研修部

##### 研修会

- |               |           |     |     |
|---------------|-----------|-----|-----|
| (1) アポイ・様似研修会 | 6月18日～19日 | 参加者 | 18名 |
| (2) 東大演習林研修会  | 7月15日～16日 | 参加者 | 22名 |
| (3) 鶴川研修会     | 8月20日～21日 | 参加者 | 12名 |

##### 観察会

- |  |          |                 |              |
|--|----------|-----------------|--------------|
| (1) 春の花をみつけよう                          | 4月20日(水) | 下見会「野鳥入門」(道場)   | 会員13名        |
| (担当 室野・内山)                             | 4月21日(木) | 一般参加者           | 75名 会員13名    |
| (2) セイヨウオオマルハナバチの防除(気温が低くかったためハチがいらない) | 4月29日(金) | 下見会「昆虫入門」(宮本)   | 会員8名         |
| (担当 宮本・室野)                             | 4月30日(土) | 一般参加者           | 2名 会員5名      |
| (3) 春のありがとう観察会                         | 5月7日(土)  | 下見会「さくら」(春日)    | 会員9名         |
| (担当 春日・小林)                             | 5月8日(日)  | 一般参加者           | 29名、 会員12名   |
| (4) 恵庭公園観察会(主)                         | 5月21日(土) | 下見会「すみれ」(小林)    | 会員6名         |
| (担当 小林・橋場)                             | 5月20日(日) | 一般参加者           | 13名 会員6名     |
| (5) 三角山登山観察会(主)                        | 5月28日(土) | 下見会「ヤマシャクヤク」(菅) | 会員10名        |
| (担当 熊野・菅)                              | 5月29日(日) | 一般参加者           | 17名 会員6名     |
| (6) 森の新緑観察会(共)                         | 6月4日(土)  | 下見会「花の進化」(吉田)   | 会員13名        |
| (担当 室野・吉田)                             | 6月5日(日)  | 一般参加者           | 85名 会員10名    |
| (7) 北広島レクの森観察会                         | 6月21日(土) | 下見会「シダ」(室野)     | 会員14名        |
| (担当 佐藤・我妻)                             | 6月22日(日) | 一般参加者           | 14名 会員参加者 5名 |
| (8) 初夏の森の観察会(主)                        | 7月2日(土)  | 下見会「昆虫2」(宮本)    | 会員18名        |
| (担当 室野・土屋)                             | 7月3日(日)  | 一般参加者           | 10名 会員8名     |
| (9) 芸術の森の観察会(主)                        | 7月9日(土)  | 下見会「地質構造」(成田)   | 会員13名        |
| (担当 今村・三崎・成田)                          | 7月10日(日) | 天気不良            | 一般参加者3名 会員5名 |
| (10) オオハンゴンソウの防除                       | ふれあいセンター | 4名、運搬用軽トラック1台   |              |
| (担当 室野・佐藤)                             | 7月23日(土) | 下見会             | 会員8名         |
|  | 7月24日(日) | 一般参加者           | 14名、 会員13名   |
| (11) 夏の森観察会(共)                         | 8月3日(水)  | 下見会「樹木」(熊野)     | 会員15名        |
| (担当 菅・伊藤)                              | 8月4日(木)  | 一般参加者           | 64名 会員14名    |

## 広報部

会報誌「エゾマツ」の発行 2011年度 夏季号 97号 6月24日発行  
自然観察 NOW の発行（野幌森林公園の共催・観察会に配布）

23年度 No.1	4月21日	「ヤナギ」	春日順雄
No.2	5月8日	「スプリング・エフェメル」	道場 優
特別号	5月8日	「木の葉の開葉の時期・開き方」	五十嵐一夫
No.3	6月5日	「花の形の変化」	吉田政徳
No.4	8月4日	「諺から学ぶ」	田村允郁

## 事務局

(1) ~~道北~~支部設立総会・観察会 6月26日(日) 11:00~14:00

~~ヤ~~参加者 札幌本部 春日順雄、佐藤清一、三崎篤 室野文男、  
帯広地区 小野寺 実、長谷川俊治、鹿島広美、川内和博  
釧路地区 佐々木文雄

※総会において決定、支部長小野寺 実、事務局長 長谷川俊治

(2) オオハンゴンソウの防除の関係機関との調整

北海道開拓記念館 総務部総務課(公園利用) 主査 石井志郎  
北海道自然ふれあい交流館(指定管理者 一般法人開拓の村) 氏家 等館長  
北海道森林管理局 石狩地域森林環境保全ふれあいセンター 志鎌 睦所長  
北海道森林管理局 石狩森林管理署 野幌森林事務所 森林官 阿部直也  
江別市生活環境部環境室 廃棄物対策課

(3) 育成研修会に関する協議 8月4日、開拓の村 旧札幌停車場第2ホール

育成研修会担当 ~~一~~菅、事務局一室野、内山、開拓の村一松井

育成会協力者会議を設定 9月14日(水) 18:30~20:30 札幌エルプラザ

## 協議事項

(1) 北海道ボランティア・レンジャー育成研修会について(参考資料)

育成研修会スタッフ(協力者)の決定

(2) 観察会と下見の話題提供者について

(3) キノコ研修の動員体制について

(4) 道北支部の結成について

(5) アポイ様似研修・東大演習林研修における課題と問題点について

(※〇〇会の加入、キリギシ山除草ボランティア)

(6) オオハンゴンソウの防除について

(7) 忘年会について

(8) その他

北海道ボランティア・レンジャー協議会 平成23年度 観察会・研修会事業

月	行事名	実施月日	下見 話題提供	集合・解散場所	主・共催 定数	参加者	担当
4	春の花を見つけよう(野視) エゾズリハ～志文別～大沢	21日(木) 10:00～12:30	20日(水) 道場優	交流館集合・解散	共催	下見会13名 一 般75名 会員13 名	室野、内山
	セイヨウオオマルハナバチ防除(野視)	30日(土) 10:00～12:30	29日(金) 宮本健市	開拓の村入口 エゾムラサキツツジ	主催 25名	下見会8名 一 般2名 会員5名	宮本、室野、 牧
5	春のありがとう観察会(野視) A:(四季美～カツラ)、B:(ふれあい～瑞穂の池)	8日(日) 10:00～14:30	7日(土) 春日順雄	交流館集合・解散	共催	下見会9名 一 般29名 会員12 名	春日、小林
	恵庭公園観察会	22日(日) 10:00～12:00	21日(土) 小林英世	恵庭公園中央駐車場 集合・解散	主催 20名	下見会6名 一 般13名 会員6名	小林、橋場
	三角山登山観察会	29日(日) 10:00～14:00	28日(土) 菅美紀子	緑花会館登山口集 合・解散	主催 25名	下見会10名 一 般17名 会員6名	菅、熊野
6	森の新緑観察会(野視) エゾズリハ～志文別～大沢	5日(日) 10:00～12:30	4日(土) 吉田政雄	交流館集合・解散	共催	下見会13名 一 般85名 会員10 名	室野、吉田
	北広島レクの森観察会	12日(日) 10:00～12:30	11日(土) 室野文男	レクの森入口集合・解 散	主催 25名	下見会14名 一 般14名 会員5名	佐藤、我妻
	アポイ・様似研修会	18(土)～19日 (日)13:00		様似町 アポイ研修 所	主催	会員18名	小林、春日
	十勝支部の立ちあげ	26日(日)10:00 ～15:30		帯広市 葉草園		本部4名 帯広4 名 釧路1名	
7	初夏の森・登満別観察会(野視) 森林の家～カマツ～樹木園～原の池	3日(日) 10:00～12:30	2日(土) 宮本健市	登満別駐車場 集合解散	主催 25名	下見会18名 一 般10名 会員8名	室野、土屋
	芸術の森周辺観察会	10日(日) 10:00～12:30	9日(土) 成田伸一	芸術の森待留所前集 合	主催 20名	下見会13名 一 般3名 会員5名	今村、三崎、 成田
	東大演習林研修会	15日(金)～16 日(土)13:00		富良野市釧路 釧路資料館前	主催	会員22名	小林、春日
	オオハンゴンソウ防除(野視)	24日(日) 10:00～12:30	23日(土)	交流館集合・解散 ふれあいセンター4名	主催 40名	下見 8名 一 般 14名 会員 13 名	室野 佐藤(清)
8	夏の森の観察会(野視) 瑞穂線～瑞穂の池～記念塔～開拓の沢	4日(木) 10:15～13:30	3日(水) 熊野美子	開拓の村集合・解散 記念塔(昼食)	共催	下見 13名 一 般64名 会員14 名	菅、伊藤
	越川研修会	20日(土)～2 1日(日)13:00		むかわ町四季館	主催	12名	小林、門村
9	秋の花でにぎわう森を歩こう(野視) エゾズリハ～志文別～四季美～カツラ	11日(日) 10:00～14:30	10日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参	内山、室野
10	秋の森の匂いをかごう(野視) 開拓の沢～ふれあい～交流館～瑞穂の池	13日(木) 10:15～14:30	12日(水)	開拓の村集合解散 (交流館昼食)	共催	昼食持参	春日、室野
	北海道ボランティア・レンジャー 育成研修会(野 視)	21日(金)～2 3日(日)		交流館・野視森林公 園内	協力	募集開始9月	菅・室野
11	晩秋の森観察会志文別コース(野視)	3日(木) 10:00～14:30	2日(水)	交流館集合・解散	主催 25名	昼食持参	佐藤、室野
	秋のありがとう観察会(野視) A:大沢・カツラ B:ふれあい・瑞穂連絡	13日(日) 10:00～12:30	12日(土)	交流館集合・解散	共催	ごみ袋・軍手・昼 食持参自由	小林・土屋
	西岡水源地自然観察会	23日(水) 10:00～12:30	22日(火)	管理事務所前集合・ 解散	主催 20名		三崎・道場
1	円山登山観察会	15日(日) 10:00～12:30	14日(土)	円山登山口集合・解 散	主催 20名		熊野・菅
2	冬の森の観察会(野視) 大沢～志文別～エゾズリハ	12日(日) 10:00～12:30	11日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	室野・牧
3	森の中で春をさがそう(野視) 大沢～志文別～エゾズリハ	25日(日) 10:00～12:30	24日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	内山・成田

ボラレンのホームページアドレス <http://hokkaidou.me/volaren/>

メーリングリストのアドレスはhbr-mi@fieeml.com  
メールアドレスをお持ちの方でメーリングリストに参加されていない方は是非参加してください。

事務局 室野文男





～ 事務局 便り ～



<お願い>

① 札幌近郊以外の会員の皆様へ

各地でそれぞれ自然関係の行事、観察会などで御活躍と思いますがもし可能であれば「エゾマツ」にそのイベントを掲載して下さると興味のある会員と一緒に参加出来ると思います。それを機会に会員同士の交流が生まれるかと思ひます。よろしくお願ひします。

② 新会員の皆様へ

「エゾマツ」97号、12ページに観察会と観察会下見の年間予定表が掲載されていますので、ぜひ参加されることをおすすめていたしすと共に歓迎いたします。

<お知らせ>

① 観察会は毎年、同時期・同コースで開催されますので前日の下見において内容が固定化しているように見受けられます。今年からより充実した下見としてテーマを持って話題を提供して下さる方に講師になっていただき観察会のコースを巡ることにしました。ベテラン、新会員共に沢山の話題を共有しながら自然にふれあい、スキルアップが出来たらと願っています。

10月12日(水)	土屋忠司さん	「オサムシ」
11月02日(水)	牧 茂さん	「クマゲラ」
11月12日(土)	今村ひろこさん	「 木 」
11月22日(火)	道場優 さん	「 鳥 」
2月11日(土)	加納勝義さん	「中学生が学ぶ植物分類」
3月24日(土)	成田伸一さん	「地形と土壤」

② 忘年会のお知らせが「エゾマツ」に掲載されています。この一年の楽しかったこと、失敗談それぞれの体験、お聞きしたいものです。ぜひご参加お待ちしております。

## 花の形はどのように変化したのでしょうか

モクレンの仲間が原始的といわれていますが、現在の花は原始的な花からどのように変化したのでしょうか。ここでは原始的な花の例と進化した花の例をあげました。ただし例にあげたものどうしが直線的に進化したわけではありません。また花はある部分は進化した形ですが、別な部分では原始的な形をとどめているものがあります。例にあげた花は森林の他に散歩道や庭先、活花、花屋さんで見かけるものです。

### 1 花の器官の数が減り、一定数になる

<原始的な花> おしべやめしべの数が多いフクジュソウ、キタコブシ、クレマチス

<進化した花> ①器官の数が5の倍数ゲンノショウコ  
②3の倍数オオバナノエンレイソウ、チューリップ



### 2 器官の位置が決まる

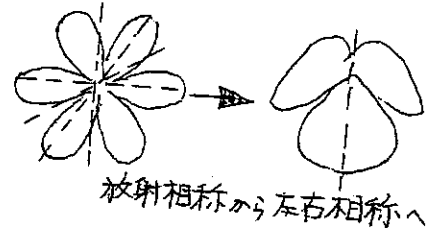
<原始的な花> 器官の位置が不定 ホオノキ

<進化した花> 器官の位置がほぼ同じマイズルソウ、カタクリ

### 3 放射相称から左右相称へ

<原始的な花> 対称軸がないフクジュソウ、スイレン

<進化した花> ① 対称軸が5本、ゲンノショウコ  
② 3本のユリ科 ③ 1本ラン科



### 4 花弁の合着=合弁花

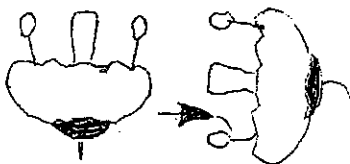
<原始的な花> 花弁が1枚ずつ離れているカラフトダイコンソウ、ヤマブキショウマ

<進化した花> ①もとの花弁数がわかるキキョウ ②花弁の合着アサガオ、カボチャ、キュウリ ③がく片の合着ツツジ科、サクラのがく片 ④がく片と花弁の合着スズラン

### 5 横向きの花

<原始的な花> 上向きの花ニリンソウ、フクジュソウ、オオイヌノフグリ

<進化した花> ①少し横向きツツジ、オニユリ、オオウバユリ ②横向きでおしべをはじくシロツメクサ ③花序全体が横向きウツボグサ、オドリコソウ、カキドオシ ④横向きの花の頂点、ずい柱(おしべとめしべの合着)があるラン科



上向きから横向きへ

その他横向きオオタチツボスマレ、キツリフネ、ハエドクソウ

## 6 花弁やがく片の立体化

<原始的な花> ヒメヘビイチゴ、クサノオウ

<進化した花> ①がく片が横になったエゾトリカブト ②がく片が距になったスマレ類、エゾエンゴサク

## 7 子房の数の減少=合着

<原始的な花> おしべやめしべの数が多いキツネノボタン

<進化した花> ①一枚の葉からできた子房エンドウ ②ヒトリシズカ

## 8 子房の位置が下降

<原始的な花> ①子房の位置が花弁やがくより高い(子房上位) アブラナ科 カキ、ケシ

②子房の位置が上位~下位バラ科、子房中位クサボケ 中位~下位ナシ、リンゴ ③

子房下位キク科、カボチャ、キュウリ、セイヨウタンポポ ④特殊な子房下位ハマナス

## 花の形はなぜ変化したのでしょうか

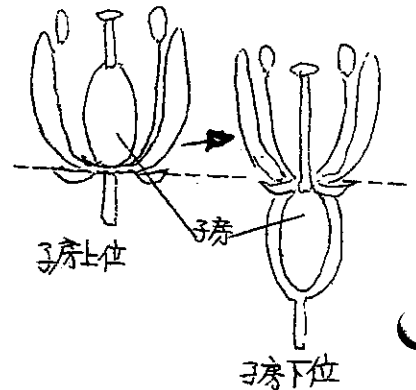
はなの器官の位置が不定形から定形へ、器官の数が多から少へ、上向きから横向きへ、放射相称から左右相称へ、離弁から合弁へ、子房上位から下位へなど環境に対応するために少ないコストで多くの子孫を残す方向へ変化したと考えられます。

(1) 花器官の減少は花粉を受け取って種子をつくるのに必要な数にしたからです。虫媒介では花弁は昆虫を呼ぶことができればたくさん必要ではありません。

(2) 横向きの花は横から来ることができるハナバチを期待したり、下向きの花はチョウなどを排除しようとしたと考えられます。

(3) 子房の合着は花粉をつきやすくすることであり、子房を1つにまとめると外側の壁が厚くして保護することもできます。

(4) 子房の下降は昆虫から肺珠(種子)を守るためです。子房下位は虫媒介に多いこともこれと関係があるように思います。このような変化は少ないコストで効率よく種子をつくる方向へと適応したと考えていいでしょう。



\* 参考図書 『身近な植物から花の進化を考える』 小林正明 東海大学出版社

\* 引用図書 『北海道の植物』(上)(下) 谷口弘一 三上日出夫 北海道新聞社

『花と昆虫 不思議なだましあい発見記』 田中肇 講談社

『新北海道の花』 梅沢俊 北海道大学出版社

## 諺から学ぶ

日頃使っている諺には的をえていて「なるほど!」と納得することがある反面、「…?」と疑問が生じることもあります。その疑問を調べてみると新しい知識が得られることもあります。この時期公園内で見られる植物の諺考です。

### 《ウドの大木》

春の芽だしの時のウドを食すると、春の喜びを感じますが、夏になるとこのウドは誰もが関心を寄せなくなるばかりか、大きく成長した姿を「ウドの大木」と軽蔑の目を向けます。

国語辞典に「ウドの大木」を「身体ばかり大きい役に立たない人のたとえ」とありますが、昨今では背の高い人への差別用語となりかねません。

ウドは夏の時期になると2mを超えるほどの高さになるものもありますが、ウコギ科タラノキ属の多年草(草本)で木本ではありません。にもかかわらず、何故、ウドを大木と表現したのでしょうか? 理由はいくつかあります。

①春、ウドが地上に顔をだした若芽のときは山菜として多くの人達に好まれますが、成長するとウドの茎は木のように太く堅く食用に適さなくなり、勿論木材にもなりません。大きくなったウド(草本)を樹木に見立て「ウドの大木」と表現したのでしょう。

②ウロ(洞)からウドに転化したという説もあります。外観が立派な大木なので、さぞかし沢山の用材が取れるだろうと伐採してみると、中心部分が菌類などが侵入して分解が進み大きなウロ(洞)になっていて無駄な部分が多く「ウド(ウロ)の大木」になったとの説です。

③ウドの木という木本(樹木)があります。この木はオシロイバナ科の常緑高木で熱帯産で小笠原諸島、台湾、沖縄などにも生えていて、高さ10m以上にもなりますが、材質が柔らかく用材にはならず役に立たない樹木なので、そのものズバリ「ウドの大木」との説です。

この時期、ウドを見て、皆さんはどの説を支持しますか。

### 《タデ喰う虫も好きずき》

この諺は「タデ(蓼)のような苦みのあるものを好んで食べる虫がいるように人の好みもさまざま」と説明されています。蓼は爛れるというように舌をただれさせるほど辛いところからきていて、このタデはヤナギタデのことを指し、特有の香りと辛味で薬味や刺身のつまに用いられています。

タデの仲間の多くは夏から秋にかけて、地味な花を咲かせます。ヤナギタデの他に、ハナタデ、イヌタデ、オオイヌタデを観察してみましょう。

自然ガイド野幌森林公園(村野紀雄 北海道新聞社)によるとヤナギタデ、ハナタデ、イヌタデ、オオイヌタデを含むタデ科イヌタデ属には20種がリストアップされています。また、私たちがよく目にする、オオイトドリやこれから見られるミズヒキもタデ科の植物です。

タデ(ヤナギタデ)



## なでしこジャパン

世界女子サッカーの試合で優勝した「なでしこジャパン」の活躍は明るいニュースとして話題になっています。日本女子代表の呼称は2004年に制定され、その時「大和なでしこ」という言葉が使われ、世界に羽ばたき、世界に通用するようにとの願いをこめて「なでしこジャパン」となった経緯があります。ナデシコは万葉集の山上憶良の歌でよく知られた秋の七草の一つです。

ナデシコ（撫子）の名は、撫でたくなるほどかわいい花との意味がありますが、属の学名ダイアンサス（Dianthus）はギリシャ語起源の合成語でギリシャ神話の神ゼウスの花といった意味で、たぐいまれな美しい花姿をたたえての命名といわれています。

俗にナデシコの名で呼ばれている種類は野生種、園芸種を問わずナデシコ科ナデシコ属に分類される仲間全体に共通して用いられています。北海道の広い地域で見られる北方系のエゾカワラナデシコは学名上の母種にあたります。カワラナデシコは北海道渡島半島から本州、四国、九州、台湾、中国大陸など暖帯から温帯に分布するといわれます。

野幌森林公園ではエゾカワラナデシコは見られませんが（自然ガイド野幌森林公園 村野紀雄 北海道新聞社には収録されていません）火山灰地や海岸線近くで見ることができます。

## 森の奥から聞こえる鳴き声

野鳥の姿は木々の葉に隠れて発見に苦労します。そんな夏の時期は特徴のある鳴き声から野鳥を想像しましょう。

### ◆アオバト

「アオーアオ、アオーアオ…」と悲しげな声が森の奥から聞こえてきます。この鳴き声の主はアオバトです。アオバト（青バト）と書くので青い色をしたハトと思われがちですが、日本名で緑バトと書くように緑色で、特に頭から胸にかけ黄色味が強い色です。

このアオバトは塩分を含んだ温泉水や海水を飲むという面白い習性を持っています。野山を生活の場とする野鳥で塩分を含んだ温泉水や海水を飲むのはアオバトだけです。何故塩分のある水を飲むかという、彼らの食べ物の木の実や花では取れない塩分のミネラル補給ではないかと考えられていますが十分なことは解っていません。海水を飲みに行く場所として、小樽の張磯岸が知られています。

### ◆トラツグミ

「ヒューヒュー」「ヒョーヒョー」と主に夜間に鳴きますが、雨天や曇っている時は日中でもトラツグミは森の中で細い声で寂しげな鳴き声なので「ぬえ」「ぬえ鳥」などとも呼ばれています。

日本の古典に登場する顔が猿に似て、胸は狸、足は虎、尻尾が蛇、そして「ぬえのような鳴き声で鳴く」架空の動物が描かれていますが、トラツグミの別名「ぬえ」より架空の動物に「ぬえ」の名を奪われてそちらの方が有名になっています。

トラツグミの体長は30cmほどで、ヒヨドリ並みの大きさです。首から腰までと、翼などの体表は黄褐色で黒い網状の三日月斑があります。



## 編 集 後 記

- ・嬉しいにニュース、茅野和恵さん(砂川市)が、今年の「育成研修会」で18人の方々が入会されました。みんなで力をあわせて、市民の期待に答えられえるような大きな運動をつくっていききたい。
  - ・今回、多くの方々からたくさんのお原稿をいただきました。自然観察会、オオハンゴンソウ防除に参加された人たち、そして私たちの仲間からの原稿でした。しかし、製本上(40ページ位が限界)のこともあって掲載できなかった原稿も多くありました。なるべく次号に載せたいと考えています。了解ください。
  - ・夏の森の観察会で、北広島中学の写真部のみなさんが参加され、すてきな原稿をいただきました。樹木の撮影の仕方などもおもしろく、文の構成も明解です。ぜひ、一読してみてください。また、みなさんに会える機会があればとっても嬉しいです。
  - ・<オオハンゴンソウの防除>に多くの市民のみなさんが参加してくれました。今年も約1万本防除し、これで3万本の防除となりました。参加者から味わい深い内容の報告をいただきました。来年も是非やりたいと考えています。
  - ・<オホーツク支部>の活動、今年結成された<十勝支部>の活動、読んでみてください。
  - ・7月15~16日 20人が参加して東大演習林研修会が行われました。2人の技官のみなさんから大麓山、湧水、クマガラの巣・生活の様子などいねいでわかりやすい説明を受け、とてもお世話になりました。
  - ・アポイ岳ファンクラブの佐々木泰さんから、活動の様子をいただきました。
  - ・今年<忘年会>忘すれないように! 各自、申し込みをお願い。
  - ・日時 12月3日(土) 6時 場所 「北のささや」NSSビル 地下1階  
連絡先 三崎篤さん TEL, FAX 011-772-0563  
住所 札幌市北区太平10条7丁目5-8
- \* 忘年会案内、別紙を参照ください。
- ・次回発行は2012年1月下旬の予定。原稿は1月15日まで、広報部の佐藤 まで送ってください。

『エノマツ』 2011年度 秋季号 98 号 2011年10月27日 発行 会長 春日 順雄
--